

立命館アジア太平洋大学



20周年、
世界を変える
物語はつづく。

立命館アジア太平洋大学
2000 - 2020

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

2020
University Prospectus

学校案内



**THIS IS WHERE THE
WORLD MEETS**





APUは、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念として、2000年4月1日に別府市十文字原に誕生しました。開学時から「学生の50%を留学生に、出身国を50カ国・地域以上に、教員の50%を外国人に」という構想を打ち出し、他に類を見ない多文化環境の中で学ぶ、真のグローバル大学を実現するという高い目標を掲げました。この目標に共感し、世界中から優秀な学生が集まった事で、初年度から留学生比率50%を達成しました。それ以来20年。国際学生を受け入れた国・地域は147カ国に登り、現在も約90カ国・地域から来た学生たちが学んでいます。さらに、APUは2030年に向けて「APUで学んだ人たちが世界を変える」というビジョンを掲げ、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティの創成に向けて歩み続けています。



国内学生と国際学生の割合

50:50



全国の大学

第1位

THE 世界大学ランキング日本版 2019
西日本 私立大学

第1位



全国私立大学

第5位

全国 私立大学トップ5

- 1位 国際基督教大学 (東京)
- 2位 早稲田大学 (東京)
- 3位 慶應義塾大学 (東京)
- 4位 上智大学 (東京)
- 5位 立命館アジア太平洋大学 (大分)

日本・世界から集う
学生の数



THE 世界大学ランキング
日本版 2019
教育充実度 私立大学

第3位

世界が集まる大学

開学以来の国際学生の入学者
出身国・地域数

147



APU キャンパス内で
選考会を行う企業数

200

外国籍および海外の
大学で学位を取得した
教員等の割合

83%^{※1}



学部授業の
日英両言語の割合

90%

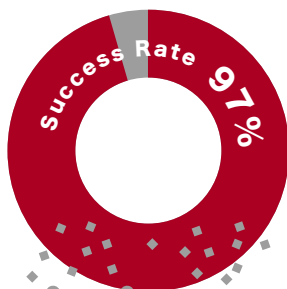


外国籍教員の割合



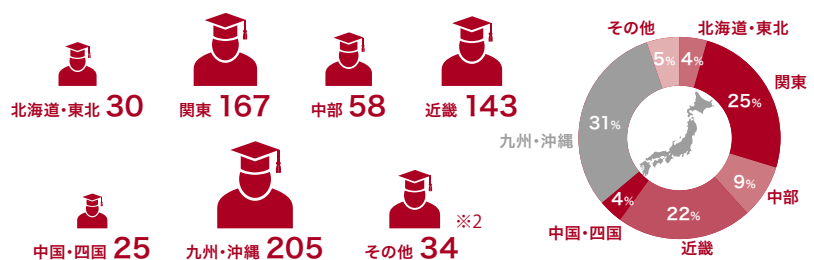
50%

国内学生
就職決定率



97%

国内学生 出身高校所在地別の学生数 (1回生)



交換留学プログラム実施機関数



152

49カ国・地域



ヨーロッパ 64



アジア 48



北米 24



中南米 7



オセアニア 6



アフリカ 3

※1 外国籍の教員、海外の大学で学位を取得した日本人教員、海外で1年以上の教育研究歴のある日本人教員の合計が占める割合 ※2 インターナショナルスクール・海外の教育機関など

APUから大学院という選択

APUの国際生との出会いと交流の中で、やりたいこと、将来の夢が明確になった。

それを実現する手段として、他大学の大学院進学を選んだ二人。

4年間の学生生活で身に付けた力を糧に、新たな一歩を踏み出そうとしている。



僕の基礎を作ってくださった方々に 恩返ししたい気持ちがあります

近藤：二人は大学に入った時から研究職に就きたいとか、大学院に進学したいとか考えていましたか？

鈴木：私は途中からです。大学3回生の頃です。

石内：僕も途中からです。考え始めたのは同じく3回生の頃でした。

近藤：何がきっかけで、そういうふうを考え始めたのですか？

鈴木：もともとAPUで出会ったスリランカの友人の影響で、紛争が起こった地域の平和構築や、復興に興味がありました。3年生になって最初は就職を視野に入れていましたが、企業活動を通して間接的にではなく、例えば国連の職員になって、災害や紛争で被害を受けた国の復興のために何か直接役に立てることがしたいと考えるようになりました。そのため、海外の大学院に進学したいと思いました。

石内：僕の場合は、1回生の最後の春休みにブータンに行ったのがきっかけです。それでブータンにのめり込んで、東京や京都で開かれている勉強会に参加して研究者にお会いしたり、日本にいるブータンの友人たちと会ったりする中で、知識を得ていくプロセスが面白いと感じ、ブータン研究が僕のこれからの1つの道だと考えるようになりました。

近藤：地域への興味と学問の面白さが同時並行で成長して行った感じかな。でも、周りの人たちは、まず、最初に就職を考えるじゃないですか。自分はやはり研究の道に進みたいという気持ちがあった？

石内：自分が一番力を発揮できるのは、アカデミックな道ではないかと考えました。ただ、今はアカデミックな事、研究対象としてブータンに



近藤 祐一

アジア太平洋学部 教授

興味があるという事です、将来的にはブータンでなくても構いません。文化人類学とか地域研究をやっている中で、いずれその経験が生きていけば良いという考え方なので、もしかしたら一般企業に就職するかもしれませんし、国際機関で働くという選択肢も考えています。

近藤：研究というよりは、世界とどうやって自分が繋がっていくかという志向性の方が強いのかな。鈴木さんの場合は、国際機関で働くための方法として大学院に進むという考え方でですね。不安はありませんか？

鈴木：大学院に進学しても、本当に国際機関で働けるのかという不安があります。自国の若手職員を国際機関に送りこむJPO派遣制度など、いろいろな方法を調べたり、インターンなどにも応募したりしています。

近藤：石内君は、よくブータンのためにという言葉を使いますね。普通は地域研究をやるにしても、あまりそういう言葉は使いませんか。

石内：APUに入って、ブータン人の学生と出会い、ブータンでその学生の家族にお世話になりました。国内でもブータンを通じて出会った研究者の方や、友好協会の方、企業の方たちがいらっしやって、いろんな方にお世話になり、だからこそ今の自分があります。ブータンを通じて出会った全ての方々への感謝の意味を込めて、今の僕の基礎を作ってくれた方々に、将来何か恩返しをしたいんです。

紛争地域の状況をどうすれば改善できるか 学びたいと考えています

近藤：鈴木さんは国際機関に勤めたいという希望を持っているけれども、どの地域で何をやりたいということはどう決まっていますか？

鈴木：卒論のテーマは紛争後の平和構築と災害後の復興がどのように関係している、お互いどのように相乗効果をもたらすことができるかということでした。在学中に体験した熊本地震をきっかけに災害に対して興味を持ったこと、スリランカ出身の友人の話聞いて紛争に興味を持ったことから、このテーマに取り組みました。卒論を書いているうちに、紛争に対する興味が一層膨らみました。自分たちに何も落ち度がないのに、命を奪われたり、家族を失ったり、住む場所を追われたりしている人たちがたくさんいます。紛争地域の状況をどうすれば改善できるか、平和をどうやって構築していけば良いか、第三者がどのように関わっていけるかなどを、大学院で学びたいと考えています。

近藤：二人とも交換留学をしましたね。APUと違う環境で学んで、大学院進学に影響を与えたことがあれば教えてくださいませんか？

石内：僕の場合はアメリカのサンディエゴの大学に半年留学しました。留学先では宗教とか言語を中心に勉強しました。留学したのがちょうど

鈴木 桃

アジア太平洋学部 2019年卒業
University of Bradford (イギリス)
Peace, Resilience and
Social Justice, MA Programme



石内 良季

アジア太平洋学部 2019年卒業
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科



トランプ氏が大統領になった時だったのですが、留学先はリベラルな大学だったので、学内でデモがあったりして、ナショナリズムについて考えるきっかけとなりました。それに加えて、アラビア語を母語としない中東系の学生がアラビア語を学ぶ姿などを見て、言語とアイデンティティーなどについても深く考える機会になりました。交換留学の経験は、今の自分を築く上でとても大きな役割を果たしていると思います。

鈴木：私はカナダのセント・メアリーズ大学に留学しました。私も申請が1年生の時だったので、その時はまだ開発学に興味の中心がありました。開発学を学ぶにあたり、大学院生に混じって授業を受けたり、論文を書いたり、プレゼンテーションをする経験を重ねたことで、自分が成長したと感じています。

石内：海外の大学では文献や本をたくさん読まされます。そういう経験は英語の勉強にもなったし、大学院進学のために役立ったと思います。

近藤：APUで過ごした4年間で自分はどう変わったと思いますか？

鈴木：自分が何に対して疑問を持っているかとか、どんなきっかけで何をしたくなったかについて、考える力が付いたと思います。もちろん、レポートを書く力やプレゼンテーション力も向上したと自信を持って言えますし、英語力、語学力も身に付いたと思います。長い人生の中にはいろんな転機があると思いますが、APUは大学の4年間を通して、自分を成長させてくれた場所でした。

石内：APUに入って、ブータンと出会って、物事をよく考えるようになりました。ただ、APUでさえもブータンというのはマイナーな存在で、興味を持ってくれる人がほとんどいなかったの、少し孤独に感じることもありました。

近藤：大学院進学を今は考えていないけれども、将来そういう道に進むかも知れない後輩たち、あるいは、卒業してから大学院進学を考える人もいると思います。そういう人たちに何かアドバイスはありますか？

鈴木：海外の大学院進学に少しでも興味があるのなら、なるべく早いうちから情報は集めたほうが良いですね。最終的に決めるまではどんどん悩めば良い。海外の大学院は情報が少なく、私は信頼できる先生を頼りました。

石内：APUには多くの国の学生がいるので、そういう人たちと接しているうちに興味や関心も変化すると。その中でも何か自分が一番関心を持っていることを見つけ、学び続けることが大事だと思います。英語は国内、海外を問わず大学院に進学する際にはどうしても必要なので、早いうちから英語力を身につけておいたほうが良いと思います。

マネジメントで世界を変える

APM

国際経営学部

College of International Management



世界水準の ビジネススクールに認定。

国際経営学部 (APM) と経営管理研究科 (GSM) は、2016年8月、マネジメント教育の国際的な認証評価機関である AACSB International より、世界でも最高水準の教育を提供する教育機関として国内で4大学のみ認証を取得しました。

国際認証 AACSB とは…

The Association to Advance Collegiate Schools of Business の略称。世界でも最も権威のあるビジネススクール認証機関の一つです。1916年にアメリカで設立され、ビジネス・リーダー養成講座を開催するなど世界各地で研究や教育の発展につながる活動を展開しています。

グローバル・ビジネス・ケース・コンペティション (GBCC)



ビジネス発想力が試される 国際コンテストで第3位に。

2016年3月、カナダ・バンクーバーのプリティッシュコロンビア大学サウダー・スクール・オブ・ビジネスで開催された「サウダーサミット・グローバル・ケース・コンペティション」に APM の学生が参加。世界9カ国・地域から集まった12チーム約50名のなかで見事第3位に入賞しました。ケース・コンペティションとは、設定された企業の経営課題に対し、限られた時間内に解決策を導き出すものです。この大会では、実在するがん研究支援 NPO や先住民団体が抱える課題の解決に、5時間もしくは24時間という時間内で取り組みました。そのほかにも、CBS Case Competition への参加や、APU においても Audi GBCC 2016 を開催するなど、国際水準のビジネススクールをめざします。

4つの学修分野



会計・ファイナンス Accounting & Finance

新しい服がほしい、映画を観に行きたい、と思っても、使えるお金の額は決まっているもの。だからこそ、何にどれだけ配分するのか、使えるお金を効率的に「管理」することが大切です。企業も限られた資金の使い道を考え、目的に応じて効果を最大化することを目指し、行動しています。そうした効果的かつ健全な経営活動を支える資金管理の手法を会計と呼び、そもそもの資金調達をファイナンスといいます。会計は国際基準への統一が進められており、産業界にとって重要なテーマです。



マーケティング Marketing

マーケティングは魚釣りのようなもの。ねらう魚の種類によって仕掛けも変われば、エサも釣り場も変わります。売り上げを伸ばすのか、利益率を高めるのか、あるいはブランドを浸透させるのか、目的によって原材料の調達方法や商品の特徴、価格設定、流通・販売ルートを選定、また広告宣伝の手法などは大きく変わるでしょう。そうした取り組みを効果的に行うための活動をマーケティングといいます。ここでは、成功するビジネスの根幹となるマーケティングの手法を幅広く学び、社会で実践できる力を育てます。



経営戦略と組織 Strategic Management & Organization

チームとして最良の結果を得るために、いつどのように動くのか、舵取りをする指導者の役割は甚大。しかし、優れた作戦を柔軟に立案できる監督がいなくても、それを選手たちが共有し、実践できなければチームの勝利はありません。戦略(作戦)と組織(チーム)は別々にあるのではなく、2つで1つとして機能するもの。それは、グローバルな競争時代を生き抜く企業にもあてはまる原理です。この分野では、企業経営における目標と、それを達成するための戦略、その戦略を実行する組織のあり方などについて学習します。



イノベーション・経済学 Innovation & Economics

剥がれない接着剤をつくらうとしたのに、貼ってもすぐに剥がれるものができてしまった…。そこで発想を転換して生み出されたのが、今やなくてはならない文具「ふせん」でした。視点を変えることで、ビジネスにチャンスをもたらした事例です。そうした工夫=イノベーションは、企業活動を支える生命線であり、成長の原動力です。新興国の台頭によって、企業間の価格競争には限界が見えてきました。グローバル化が進む企業競争を勝ち抜いていくためにカギとなるイノベーションと、生きた経済学を学びます。

カリキュラム

ビジネス実践力を基礎から段階的に養う。

■卒業要件単位 ※下記以外にも卒業するための要件があります。

日本語基準スタンダードトラックの場合		
科目分野	必要単位数	合計
共通教育科目	英語	24 単位
	共通教養科目	16 単位
	言語教育科目および共通教養科目	0 単位*
APM専門教育科目	必修専門教育科目	20 単位
	専門教育科目	42 単位
他学部科目	0 単位*	124 単位以上

英語基準の場合		
科目分野	必要単位数	合計
共通教育科目	日本語	16 単位
	共通教養科目	16 単位
	言語教育科目および共通教養科目	8 単位
APM専門教育科目	必修専門教育科目	20 単位
	専門教育科目	42 単位
他学部科目	0 単位*	124 単位以上

*卒業に必修ではありませんが、修得した単位は卒業に必要な単位数の一部として算入されます

		1 回生	2 回生	3 回生	4 回生		
言語教育科目	英語 Standard Track	英語初級 A・B 英語中級 A・B	英語中級 A・B 英語準上級 A・B	英語プロジェクトⅠ 英語ディスカッションとディベート 英語ビジネス・プレゼンテーション 英語ビジネス・ライティング ジャーナリズムのための英語			
	英語 Advanced Track	英語上級 1A・1B 英語上級 2A・2B	ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ 英語多読 メディアのなかの英語	英語プロジェクトⅡ			
	日本語	日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本語中級	日本語中上級 日本語上級 日本語プロジェクト A・B・C・D・E・F 講義の日本語 日本語・日本文化 日本語・日本社会	キャリア日本語 日本語ビジネスコミュニケーション A・B			
	AP言語	中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ スペイン語Ⅰ マレー語・インドネシア語Ⅰ タイ語Ⅰ ベトナム語Ⅰ	中国語Ⅱ・Ⅲ 韓国語Ⅱ・Ⅲ スペイン語Ⅱ・Ⅲ マレー語・インドネシア語Ⅱ・Ⅲ タイ語Ⅱ・Ⅲ ベトナム語Ⅱ・Ⅲ	中国語Ⅳ 韓国語Ⅳ スペイン語Ⅳ マレー語・インドネシア語Ⅳ タイ語Ⅳ ベトナム語Ⅳ			
	特定講義	海外集中言語研修 アジア太平洋言語入門 特殊講義(言語教育科目)	日本語教育のための日本語学 日本語教授法 国連公用語概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ TESOL 英語検定試験対策講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
	共通教育科目	APUリテラシー	スタディスキル・アカデミックライティング 多文化協働ワークショップ 平和・ヒューマンリティ・民主主義 異文化間コミュニケーション入門 異文化フィールドワークⅠ 異文化フィールドワークⅡ 多文化比較論 ビアリーダートレーニング入門 ビアリーダートレーニングⅠ 海外学習デザイン APMブリッジプログラム	ピアリーダートレーニングⅡA ビアリーダートレーニングⅡB			
		世界市民基盤	アジア太平洋学系	アジア太平洋の言語 アジア太平洋の宗教 アジア太平洋の地理 アジア太平洋の文化と社会 アジア太平洋の歴史 アジア太平洋の経済			
			日本学系	日本の地理 日本の文化と社会 日本の歴史 日本の経済 日本国憲法 特殊講義(日本学)	茶道 華道 日本の伝統芸能		
			基礎系	法学 心理学 生命倫理	環境科学 ウェルネス		
		学部専攻入門系	文化・社会学入門 メディア入門 国際関係論入門 政治学入門 開発学入門 環境学入門 観光学入門 経済学入門				
社会ニーズ対応	基礎スキル系	統計学 ネゴシエーションスキル ロジカルシンキングとフレームワーク キャリア・デザインⅠ 特殊講義(共通教養科目)	メディア制作ラボ ボランティア研究 インターンシップ キャリア・デザインⅡ	キャリア・デザインⅢ・Ⅳ			
ICT系	インターネット入門 コンピューターリテラシー プログラミング	データマイニング GIS入門 インターネット技術統合	データベースシステム 特殊講義(ICT)				
APM専門教育科目	必須科目	経営学入門 基礎数学 会計学Ⅰ マーケティング入門	上級数学 金融論 人材と組織行動のマネジメント 生産管理論 ビジネス法務戦略	ビジネスエッセンス	グローバルマネジメント (Capstone)		
	会計・ファイナンス (AF)		会計学Ⅱ 財務会計論Ⅰ・Ⅱ 原価会計 コーポレート・ファイナンス	管理会計論 上級会計 国際会計 監査 会計 特殊講義 金融市場と金融制度 国際金融論 投資・証券分析 投資戦略 ファイナンス 特殊講義			
	マーケティング (M)		Eコマース マーケティング・リサーチ ブランドマネジメント 消費者行動論 販売・プロモーションマネジメント サプライ・チェーン・マネジメント	国際物流論 国際マーケティング論 サービスマネジメント 製品開発論 マーケティング 特殊講義			
	経営戦略と組織 (SMO)		ブランドマネジメント アントレプレナーシップ 経営戦略論 サプライ・チェーン・マネジメント	サービスマネジメント 国際取引 ファミリービジネス 国際物流論 組織行動論(上級) 人材マネジメント(上級) 経営戦略と組織 特殊講義			
	イノベーション・経済学 (IE)		マクロ経済学 ミクロ経済学 アントレプレナーシップ	製品開発論 技術経営 オペレーションズ・リサーチ イノベーション 特殊講義 アジア経済論 国際経済学 国際政治経済学 開発経済学 経済学 特殊講義			
	APM共通		ソーシャルアントレプレナーシップ ビジネスデータ分析 APMフィールド・スタディ 特殊講義 専門教育科目	ビジネスケース分析・コミュニケーション 経営情報システム ビジネスインターンシップ プロジェクト研究			
	演習			専門演習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究 卒業論文		

※上表で青色の13科目は必修科目です。

大学院／経営管理研究科(GSM)

グローバルに活躍できる 総合的マネジメント人材を養成。

英語による経営管理修士(MBA)の学位を取得することができます。APMとともに、マネジメント教育の国際認証機関『AACSB』の認証を取得するなど、世界水準の専門知識を身につけられる教育・研究の場があります。

■<修士課程>経営管理専攻(MBA)

日本の経営コース	会計とファイナンスコース
マーケティングとマネジメントコース	イノベーションとオペレーションマネジメントコース



ヤン・ジョンウ 先生 (韓国出身)

〔研究領域〕 内部統制、内部監査、コーポレートガバナンス、企業の社会的責任、企業組織の運営

数字で様々な企業を比較でき 惑わされることが無くなりました

ビジネスや経営学において会計は必要不可欠です。この分野を専攻することで、財務諸表の分析やその数字が何を意味しているのか、企業の実態を数字で把握することを学びました。財務諸表を読めるようになると、数字で様々な企業を比較でき、主観的なイメージに惑わされることが無くなりました。私は将来監査法人への就職を目指しています。企業の決算書の信頼性を保証するという、会計学を会得しなければできない仕事に、魅力を感じているからです。

将来、企業の経営戦略を支える 真の経営リーダーを目指します

会計・ファイナンス分野では、企業の財務情報を軸に経営学を学びます。経営学では「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」などの経営資源をいかに有効に活用して、高い成果を上げるかが一番の課題です。「ヒト」「モノ」「情報」は全て「カネ」につながっており、「財務諸表」という経営報告書でまとめられます。これらの過程を学ぶことを始め、会計（企業の様々な活動をお金の尺度で整理・活用）、金融（お金の貸し借り）、財務（お金の管理・運用）の様々なトピックについて議論していきます。1年次の必須科目である会計学Iを踏まえ、2年次では会計学II、財務会計論I・II、原価会計、金融論、コーポレートファイナンスといった科目を中心に全般知識を固めます。3年次からは管理会計、上級会計、国際会計、監査、

金融市場と金融制度、国際金融論、投資・証券分析、投資戦略などの科目を通じて専門領域に進みます。この学修分野での学びを深めることによって、企業の戦略が「机上の空論」で終わらないための高度な計画と柔軟な経営管理が可能な人材になります。



3回生 壽山 一成



チェン・シューチン 先生 (オーストラリア出身)

〔研究領域〕 マーケティング、マネジメント

マーケティングのプロや 管理職として働けます

マーケティングは顧客に焦点を当てた、魅力的な学問領域です。単にビジネスの分野だけではなく、例えば「男女平等」など、世界的な課題に対して民衆の関心を引き起こし、世界を変えるメッセージを発する事などにもマーケティングの知識が役に立ちます。この学修分野では、学生はマーケティングについて様々な側面から学びます。教室では先生からだけではなく、様々な国から来た多様な文化的背景を持つ学生との交流を通じて学びを得られます。また、教室の中だけでなく、実際のフィールドの中で学ぶプログラムも用意されています。マーケティングの基礎から始まり、マーケティングリサーチのような専門的な知識まで得られるほか、アカデミックやビジネス関連の文章の書き方、プレゼンテーションの仕方、チームワークなどを学びます。これらのスキルは将来どんな職業に就いても役立ちます。マーケティングの知識を身に付けた学生は、マーケティングリサーチャー、ブランド/プロダクトマーケティングマネージャー、ビジネスコンサルタントとして働けます。



商品やサービスを 世界に広める仕事をしたいです

学修分野としてマーケティングを選んだ一番大きな理由は、物やサービスが売れる仕組み、消費者行動に関心があったからです。マーケティングは一つの問いに対して、明確な答えがない学問だと考えています。そのため常に試行錯誤をしながら答えを探る部分に、魅力を感じました。将来的には日本だけでなくとどまらず、自分に関わる商品やサービスを、世界に広める仕事をしたいと考えています。また、その商品の魅力を伝えるプロデュースのような仕事にも、興味があります。



4回生 長岡 徹

国際経営学部は、国際ビジネスの現場で活躍できる人材の育成を目標にしています。
「会計・ファイナンス」「マーケティング」「経営戦略と組織」「イノベーション・経済学」の
4つの学修分野を包括的に学び、実践力を身に付けます。



篠原 欣貴 先生

〔研究領域〕ビジネスエシックス、企業と社会

多文化の視点を知ること 気づきはさらに深まります

どうすれば企業が多様な人材を生かし、グローバルに事業展開できる組織づくりや戦略考案ができるのかを学びたいと思い、現在の学修分野を選択しました。現在、インドネシア人、ベトナム人、日本人が参加するゼミで、経営や組織に関する様々な論文を読んでいます。世界の最先端の内容を学ぶだけでなく、論文について議論する際は、日本人の視点だけでなく、ベトナム人、インドネシア人の視点も知ることができるので、気づきはさらに深まります。

一つのことをみんなで 作りあげる力が身に付きます

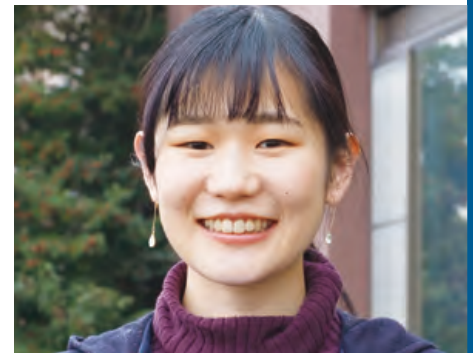
この学修分野では、マネジメントに関する基礎的な知識が身に付きます。さらに、そういった知識面のみならず、グループワーク、チームワークを通じてどうやってみんなで1つものを作り上げるかという力、そして、コミュニケーション能力も学生は身に付けることができます。例えば私が担当している科目では、日本人を含む3カ国以上の国籍の混じったチームを作らせてプロジェクトに取り組ませています。このように、非常にダイバーシティのある環境で学生はグループワークを行えます。マネジメントという科目は高校の課程にはないので、APMの受験を考えている高校生のみならずには、まず企業とか、製品に興味を持ってほしいですね。例えば、お菓子を買おうとします。そのお菓子はどのように作られているんだろう、どうやって自分のところに届くんだろう、

どうやってお店に並べられるんだろう、その仕組みを学ぶのがマネジメントです。自分の周りの物事に対して、これはどうなっているんだろうという疑問を持ってもらうことで、マネジメントというものがすぐ身近になります。



経営戦略と組織

Strategic Management &
Organization



3年生 若松 芽依



高梨 千賀子 先生

〔研究領域〕イノベーション戦略、国際標準化戦略・知財戦略、IoT時代のプラットフォーム戦略&ビジネスモデル、戦略的ものづくりマネジメント

社会の仕組みを多角的な視点から 捉えることができるようになります

この分野では企業発展をもたらすイノベーションとビジネスを効率化する生産管理について学びました。わたしがこの分野を選んだ理由は、組織の生み出す価値（企業行動）が社会や経済にどのような影響をもたらしているのかを学びたいと考えたからです。この分野を選択することによって企業利益を最大化する方法や、政府・家計・企業がどのように経済活動を決定しているかなど、社会の仕組みを多角的な視点から捉えることができるようになります。

経済発展に貢献したいと考えている 学生を主な対象にした分野です

イノベーションなくして、国の経済発展も企業の繁栄もありません。政府であれ民間企業であれ、イノベーションの担い手として、これから活躍したいと思っている学生が「経済および経済発展のメカニズム」を知り「イノベーションをマネジメントするすべ」を基本から学ぶことができるのがこの学修分野です。イノベーション創出はそもそも難しいものだとすることを直接的、間接的に体験しつつ、アントレプレナーシップを育てていきます。専門分野の履修は、基礎的学修を終えた2年次よりスタートし、最終学年にむけて専門的かつ実践的になっていきます。2年次では生産管理論、開発経済学、国際経済学、アジア経済学、政治経済学など、その後に続くものの基礎になる科目を学びます。3年次になると、技術経営、アントレプレナーシップ、オペレーションズ・リサーチなどの科目が入ってきます。経済発展やイノベーションの普及スピードや実現方法は国や地域、企業によって様々です。グループワークや議論等を通し、学生たちはその多様な有様を感じ、互いに学び、理解しあう楽しみを得ることができるでしょう。



イノベーション・経済学

Innovation & Economics



4年生 一瀬 綾香

オンキャンパス、オフキャンパスの両方で多くの気づきと学びを得た学生時代 学生の4年間

いろんなことに挑戦できるので
苦手なことを克服できました



Feature

豊田 将大 さん (TOYODA Shota)

国際経営学部 4回生
大分県出身

高校1年生の時に初めてアメリカに1年間留学して、それがきっかけで国際的なことや海外に興味を持つようになりました。APUのオープンキャンパスに行くと国際学生がたくさんいて、そんな環境と一緒に勉強できることがすごく魅力的でした。高校までは人前に出るのが苦手だったのですが、いろんなことに挑戦して、それを克服したいと思ったのも、APUに入学した理由の1つです。実際、国際生や、全国から来た学生と関わり、4年間を通じていろいろなプログラムに参加し、自ら動き、仲間と1つのことを成し遂げる経験を積みました。このことを通じて、人前に出ることに対する苦手意識もなくなり、チームワークなど、社会に出たときに必要なスキルも身に付きました。



1回生

1回生の時はGASS (Global Admission Student Staff) という、オープンキャンパスの運営団体に参加しました。人前に出るのが苦手な自分を変えたくて、挑戦しました。APハウスにも入寮し、シェアタイプの部屋で暮らしました。最初の半年は、バングラデシュの学生、後の半年は台湾の学生と同室でした。一緒に手でカレーを食べたり、中国語を教えてもらったり、日常生活の中で異文化を学べました。



GASSに参加することで、人前に出るのが苦手という自分の弱点を克服した。

2回生



SENDではベトナムに1カ月滞在。日本語を教えるだけでなく、日本文化を広めるイベントも企画した。

2回生ではSENDという教育インターンシッププログラムに参加し、ベトナムに1カ月間行き日本語と日本の文化を教えました。ベトナム人の大学生と中国人の留学生に日本語を教えたほか、日本の文化を広めるためのイベントを立ち上げ、200人ほどのベトナム人が参加してくれました。企画段階で大学の先生に提案をし、フィードバックをいただきながら進めたのですが、お互いが納得するような企画をつくり上げるまでの過程がとても大変でした。

3回生

3回生の時は、LTA (リーダー・ティーチング・アシスタント) に挑戦しました。LTAはTA (ティーチング・アシスタント) とは違ってSNSを使って連絡するなど、とても細かい作業が必要です。授業の流れも全部LTAが作らなければいけないので、すごく大変でした。1回生のころから、タイムマネジメントの仕方や、ディスカッションの仕方は授業内で学んでいたもので、そういうスキルが役に立ちました。



3回生ではLTAに挑戦。これまでの学びを生かして授業の流れを組み立てるなど、TAをサポートした。

4回生



4回生ではグローバル人材に必要なスキルを高校生が身に付けるためのプログラムを立ち上げた。

4回生では、BEGINという高校生向けの教育プログラムを代表として立ち上げました。グローバル人材に必要なスキルを、高校生が身に付けるための、3泊4日のプログラムです。ディスカッション、チームワーク、問題発見・解決、多様性理解、プレゼンテーションという5つのスキルをアクティビティを通じて学びます。そして、高校生はそれらのスキルを活かして提案型プロジェクトの作成を行います。

卒業生に聞く 「APUで何を学んだ？」

APUの学生生活を通して得た財産は 人とのつながりです

剛：僕は大分出身のAPU一期生です。通っていた高校に指定校推薦が来ていて、APUは何かほかの大学とはちょっと違う色があるなと感じ、思い切って受けました。

昌代：私は、高校の進路指導室でAPUのパンフレットを見つけたのがきっかけだったと思います。実力も無いのに勝手に海外の大学に行こうと考えていたのですが、海外に行かなくても、海外に行くよりもいろいろの人と出会えそうだと思うし、まだ校舎もできていないのに別府にも足を運び、両親にこの大学に行かせて欲しいとお願いをしました。

私は実家が梅乃宿ということで、この大学に入ることで日本酒という日本の伝統文化を今後伝えていける機会になるのでは、という思いがありました。実際に入ってみると、APUの学生生活は「面白かった」の一言に尽きます。そして、APUの学生生活を通して得た財産は、やっぱり人とのつながりです。仲間が世界中にいます。ドバイで展示会をした時に、梅乃宿からドバイにお酒を送ったことがありました。その際、エミレーツ航空で働いているAPU卒業生がドバイに住んでいたのので、助けてくれました。

そういうネットワークがあって、海外で何かしようとしたときに、それまで知り合いではなかったにもかかわらず、APUというだけでみんなが助けてくれます。そういう事が、何度もあります。

APUはある意味とても良い場所にあると思います。東京の大学だったらどの学校とでも交流できるし、どこの学生とでも付き合えますが、APUは本当に下界と離れた山の上にポツンとあります。ですから、すごくファミリー意識というか、仲間意識が生まれます。

自分で考え、率先して動くという 習慣が身に付きました

APUには様々な国と地域からやってきた国際学生が約半数を占める程多く在籍しており、校内では様々な言語が飛び交っています。国際学生と交流する中で、自分自身がこれまで持っていた価値観は当たり前ではなかったということに気付かされました。特に、国際学生数名と共にグループディスカッションをする授業では、自分の意見を明確に持ち、それらを相手に伝えなければ議論が成り立たないことも知りました。同時に、相手の価値観や文化を受け入れることの重要性も学びました。固定概念で物事を考えたり、相手の意見に同調したりばかりだった私にとって、この体験は衝撃的でした。

Sun Piccolo Projectという児童買春の撲滅を目指した海外ボランティアサークルに所属し、2回生からサークルの代表を務めました。サークル活動では、年間計画を立て、やるべきことを洗い出し、常に自ら考えて動かなければなりません。2回生と3回生の夏、フィリピンにあるNGOを訪問しました。どんなNGOが現地に存在するのかを調査し、アポイントメントを取るところから始め、その結果3つのNGOを訪問し、彼らの活動内容やフィリピン社会が抱える問題等を勉強する機会を得られました。それぞれ10日間程の短い期間でしたが、現地NGOメンバーと共に活動できたことや、日本国内でサークルのメンバーと一緒に考案したストリートチルドレンへのアクションを現地で実際に実現できたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。これらの活動を通じ、自ら率先して行動を起こす習慣が身に付きました。

私は高校生まではとても引っ込み思案な性格でした。人とコミュニケーションをとることは嫌いではなかったのですが、自ら進んで何か行動を

授業だけではなく、国際学生と毎日の生活を共に過ごす多文化環境の中で培われるダイバーシティへの理解力、異なる文化への共感力、そこから生まれる絆が、APU生の貴重な財産となる。



榑永 剛さん

梅乃宿酒造株式会社
取締役 製造部 部長
APM 2004年卒業

榑永 昌代さん

APM 2004年卒業

剛：うちの会社は何となくAPUに似ている雰囲気があります。言われた通りにすることを嫌うし、突拍子のないアイデアでも、今までと違う見方から出てきたものに関してはすごく尊重してもらえます。

APUのように特別な変わった色のある大学に行ったことで、人と全く同じ方向を向くのではなく、ちょっと自分だけ下がついて見たり、上になって見たりという物の見方ができるのかなと思います。それを評価してもらえる会社の環境が自分には合っていて、今、とても幸せです。



山本 祥子さん

東海パネ工業株式会社
営業グループ
APM 2012年卒業

起こすということが苦手な性格でした。しかし、APUに入学し、明確な目標を持ちそれを達成する為に行動を起こし続けるエネルギーな仲間達と出会い、私自身も大きく変わることができたと感じています。APU卒業後も、自分のキャリアパスを頭の中で描き、「将来自分がなりたい姿になる為には今の自分は何をしなければならぬか」という目的意識を常に持っている卒業生は多いと思います。私自身、そんな仲間の姿に今でも刺激を受けています。

私たちの力で平和な未来を

APS

アジア太平洋学部

College of Asia Pacific Studies



観光学の国際的な教育・研究連携のネットワークの一員に

アジア太平洋学部は2018年3月、国連世界観光機関（UNWTO）の関連組織であるUNWTO Themis Foundationが実施する観光教育機関向けの認証制度、UNWTO.TedQual（Tourism Education Quality）の認証を取得しました。

国際認証TedQualとは

TedQualはUNWTOが定める世界観光倫理憲章を柱とし、その精神に反しない観光学教育・研究の質の向上を目的とする国際認証です。国内私立大学では初めてAPUが取得しました。この認証を取得したことで、UNWTOが提供するさまざまな学術プログラムや交流プログラムを利用できるようになり、国際的な教育・研究連携が可能となりました。

ダブルディグリープログラム(DUDP)



APUと海外の大学の2つの学位を4年間で取得可能。

最短4年間で、APUと海外の派遣先大学の2つの学位を取得できるプログラムです。長期間にわたる海外での学修を通して、専門的な学びに取り組みます。現在、アメリカのセント・エドワーズ大学、オーストリアのザルツブルク応用科学大学、そして韓国の慶熙（キョンヒ）大学で展開しています。セント・エドワーズ大学では行動および社会学部に所属し、学修します。ザルツブルク応用科学大学ではビジネス・社会学部・イノベーションマネジメントツーリズム学科/観光学専門に所属し、学修します。慶熙大学では、国際関係部に所属し、学修します。なお、派遣学生は4年間を通してAPUにのみ学費を支払います。先方大学への学費納入は不要です。

4つの学修分野



環境・開発

Environment & Development

エビを効率的に収穫するために貴重なマングローブ林を伐採して養殖池をつくる。あるいは、農地開発のために干潟を開拓したり、熱帯雨林を切り拓いたり。それは経済活動を加速させますが、同時に自然環境が守っていた生態系や護岸機能などを致命的に傷つけてしまうことがあります。そんな環境と開発の問題にどう対処すればいいのか。限られた資源の使い方について、私たちは人類全体の課題として考えていくべきでしょう。この分野では経済発展と環境保全の両面から持続可能な開発について学びます。



観光学

Hospitality & Tourism

日本の重要な政策の柱として考えられている「観光」。訪日外国人観光客数は飛躍的に伸びており、さらなる文化交流が期待されています。2020年に東京で開催されるオリンピックは日本の観光産業を盛り上げる大きな契機。また近年は、環境に配慮したエコツーリズムや自然に触れるグリーンツーリズムなど地域独自の観光スタイルも生まれ、観光への期待と注目はますます高まっています。そうした観光について、土台となるおもてなしの心（ホスピタリティ）や異文化理解の視点などから追求して考えます。



国際関係

International Relations & Peace Studies

例えば学園祭で出物をするとき、全員の意見を通すことはほぼ不可能です。同じ年代の人たちでも一つの方向を向くのは難しい。ましてや国・地域が異なる者同士だと、さらに困難といえるでしょう。私たちが乗っている地球船も、その舵取りは本当に難しく、多くの問題にあふれています。国や企業など、それぞれの主張が対立した際、どうやって解決に導けばいいのか。法律、政治、経済など多様な視点から、国際的な課題を平和に解決する方法について探ります。



文化・社会・メディア

Culture, Society & Media

ある国際的な協定が不調に終わった際に「A国の協力が不十分」と報じる国がある一方で、「B国の高圧的な姿勢に問題があった」と報道する国もありません。各国の利害関係やメディアの考え方などにより、報道の内容は大きく異なるのです。本質をとらえるには物事を一面から見るのではなく、さまざまな角度から見る事が大切。そうした姿勢はグローバル化の時代においてますます重要になっています。この分野では特に文化、社会、メディアに重点を置き、アジア太平洋地域を多角的にとらえることで、地域が抱える課題の本質に迫ります。

カリキュラム

政治、経済、社会、文化などを総合的に学習。

■卒業要件単位 ※下記以外にも卒業するための要件があります。

日本語基準スタンダードトラックの場合		
科目分野	必要単位数	合計
共通教育科目	英語	24 単位
	共通教養科目	16 単位
	言語教育科目および共通教養科目	0 単位*
APS専門教育科目	62 単位	124 単位 以上
他学部科目	0 単位*	

英語基準の場合		
科目分野	必要単位数	合計
共通教育科目	日本語	16 単位
	共通教養科目	16 単位
	言語教育科目および共通教養科目	8 単位
APS専門教育科目	62 単位	124 単位 以上
他学部科目	0 単位*	

*卒業に必修ではありませんが、修得した単位は卒業に必要な単位数の一部として算入されます。

		1 回生	2 回生	3 回生	4 回生		
言語教育科目	英語 Standard Track	英語初級 A・B 英語準中級 A・B	英語中級 A・B 英語準上級 A・B	英語プロジェクトⅠ 英語ディスカッションとディベート 英語ビジネス・プレゼンテーション 英語ビジネスライティング ジャーナリズムのための英語			
	英語 Advanced Track	英語上級 IA・IB 英語上級 2A・2B	ビジネス英語Ⅰ・2 英語多読 メディアのなかの英語	英語プロジェクト2			
	日本語	日本語初級Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 日本語中級	日本語中上級 日本語上級 日本語プロジェクト A・B・C・D・E・F 講義の日本語 日本語・日本文化 日本語・日本社会	キャリア日本語 日本語ビジネスコミュニケーション A・B			
	AP言語	中国語Ⅰ 韓国語Ⅰ スペイン語Ⅰ マレー語・インドネシア語Ⅰ タイ語Ⅰ ベトナム語Ⅰ	中国語Ⅱ・Ⅲ 韓国語Ⅱ・Ⅲ スペイン語Ⅱ・Ⅲ マレー語・インドネシア語Ⅱ・Ⅲ タイ語Ⅱ・Ⅲ ベトナム語Ⅱ・Ⅲ	中国語Ⅳ 韓国語Ⅳ スペイン語Ⅳ マレー語・インドネシア語Ⅳ タイ語Ⅳ ベトナム語Ⅳ			
	特定講義	海外集中言語研修 アジア太平洋言語入門 特殊講義(言語教育科目)	日本語教育のための日本語学 日本語教授法 国連公用語概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ TESOL 英語検定試験対策講座Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
	共通教育科目	APUリテラシー	スタディスキル・アカデミックライティング 多文化協働ワークショップ 平和・ヒューマニティ・民主主義 異文化間コミュニケーション入門 異文化フィールドワークⅠ 異文化フィールドワークⅡ 多文化比較論 ピアラーダートトレーニング入門 ピアラーダートトレーニングⅠ 海外学習デザイン APSアリッジプログラム	ピアラーダートトレーニングⅡ A ピアラーダートトレーニングⅡ B			
		世界市民基盤	アジア太平洋学系	アジア太平洋の言語 アジア太平洋の宗教 アジア太平洋の地理 アジア太平洋の文化と社会 アジア太平洋の歴史 アジア太平洋の経済			
			日本学系	日本の地理 日本の文化と社会 日本の歴史 日本の経済 日本国憲法 特殊講義(日本学)	茶道 華道 日本の伝統芸能		
			基礎系	法学 心理学 生命倫理	環境科学 ウェルネス		
		学部専攻入門系	文化・社会学入門	メディア入門 国際関係論入門 政治学入門 開発学入門 環境学入門 観光学入門 経済学入門			
基礎スキル系			統計学 ネゴシエーションスキル ロジカルシンキングとフレームワーク キャリア・デザインⅠ 特殊講義(共通教養科目)	メディア制作ラボ ボランティア研究 インターンシップ キャリア・デザインⅡ	キャリア・デザインⅢ・Ⅳ		
ICT系			インターネット入門 コンピュータリテラシー プログラミング	データマイニング GIS入門 インターネット技術統合	データベースシステム 特殊講義(ICT)		
APS専門教育科目		コア科目	APS入門 地域研究入門				
		環境・開発(ED)		生物多様性 地球環境問題 環境と社会 都市環境と開発 エコ・ツーリズム論 コミュニティ・ベース・ツーリズム 基礎演習(環境・開発) 開発社会学・人類学 国際協力論 開発政治論 紛争と開発 環境・開発 フィールド・スタディ	産業生態学 環境モデリング GISとリモートセンシング 資源マネジメント 環境コミュニケーション 環境経済学 環境政策 開発政策 開発経済学 コミュニティ開発論 開発のプロジェクト・マネジメント 国際経済学 国際機構論 NPO/NGO研究 環境・開発 特殊講義		
		観光学(HT)		観光社会学 旅行産業論 遺産観光論 観光文化論と観光史 エコ・ツーリズム論 文化人類学 基礎演習(観光学) コミュニティ・ベース・ツーリズム ホスピタリティ・マーケティング ホスピタリティ・マネジメント イベントマネジメント 観光学 フィールド・スタディ	観光経済学 MICE産業論 農業遺産とツーリズム 観光・ホスピタリティと法 健康とウェルネスツーリズム 観光とソーシャルメディア 観光地マーケティングとマネジメント 観光開発と計画 リゾート開発 開発のプロジェクト・マネジメント オペレーションズ・リサーチ 組織行動論(上級) 人材マネジメント(上級) 観光学 特殊講義		
	国際関係(IRP)		国際関係理論 国際協力論 人権論 政治理論 開発政治論 アジア太平洋の比較政治経済 国際政治学 基礎演習(国際関係) 国際法 国際問題と政策 紛争と開発 平和学 グローバル化と地域主義 国際関係 フィールド・スタディ	アジア太平洋における国際関係 国際機構論 開発政策 アジア太平洋地域システム論 国際政治経済学 アイデンティティと政治 メディアと政治 エスニシティと国民国家 冷戦後の紛争と地政学 グローバルメディアと紛争 暴力とテロリズム グローバリゼーションと規範 国際紛争解決 日本の対外関係史 日本の外交政策 戦略分析と意思決定 国際関係 特殊講義			
	文化・社会・メディア(CSM)		社会学 社会心理学 社会階層論 国際社会学 文化人類学 グローバル・ヒストリー グローバル化と地域主義 基礎演習(文化・社会・メディア) カルチュラルスタディーズ メディアと文化 メディアと法 ニューメディアと社会 人文学と近代 言語と社会 文化・社会・メディア フィールド・スタディ	多文化社会論 組織社会学 教育と社会 エスニシティと国民国家 メディアと歴史 メディアと政治 グローバルメディアと紛争 ジェンダー研究 宗教と信仰 アイデンティティと政治 グローバリゼーションと規範 日本の対外関係史 NPO/NGO研究 文化・社会・メディア 特殊講義			
	AMP共通		地域研究 特殊講義(専門教育科目) APSフィールド・スタディ	プロジェクト研究			
	演習		調査研究入門	専門演習Ⅰ・Ⅱ	卒業研究Ⅰ・Ⅱ		

大学院／アジア太平洋研究科(GSA)

行政・環境・経済開発など先端研究に取り組む。

社会科学と人文科学を高度に融合した研究の場であるアジア太平洋研究科(GSA)。行政・環境・経済開発等に関する研究テーマに取り組み、国際的な課題の解決をめざして、アジア太平洋地域の持続的発展に貢献できる人材を育成します。

■ <博士前期課程>

アジア太平洋学専攻 (APS)

国際協力政策専攻 (ICP)

■ <博士後期課程>

アジア太平洋学専攻 (APS)



須藤 智徳 先生

〔研究領域〕 環境政策、環境資源経済学、開発経済学、開発政策

いかに私たちの生活に身近で 実践的な学問であるかがわかりました

私はゴミのマネジメントなどの環境問題や、持続可能な社会作りについて勉強しています。この学修分野を選んだのは、自然豊かな地元が農業を通してほかの国に貢献しているのを見て、私もより良い社会を作るために何かしたいと思ったからです。複数の環境・開発分野の授業を履修し、経済学的視点や社会学的視点など様々な観点から環境問題や国の発展プロセスを学ぶことができ、この分野がいかに私たちの生活に身近で実践的な学問であるかがわかりました。

開発と環境に関する理論と実践を バランスよく学修できます

環境・開発学修分野は、「持続可能な社会をめざして、国際開発協力のあるべき方向性を探究する」ことを目指し、貧困や教育などの社会課題、経済成長やエネルギー等の経済課題、大気汚染や廃棄物等から気候変動や生物多様性等の地球規模での環境問題まで、幅広く、社会・経済の発展と環境保全の両面から持続可能な開発について考えます。SDGsを学修の基礎とし、開発と環境に関する理論と実践をバランスよく学修できる研究・教育体制をとっています。大学での講義を中心とした理論の学修に加え、授業の中でのグループワークや専門演習、フィールドスタディにより、実社会で起こっている様々な課題に対し、より実践的な解決策を検討していくことで、理論と実践を密接に関連付け、卒業後もそれら

を応用できる人材の育成を図っています。担当教授陣は、専門分野で顕著な研究成果を挙げている教員のほか、開発途上国での開発プロジェクトの実施経験を有する教員や、気候変動交渉やSDGsの策定に携わっていた教員等、多彩なメンバーがそれぞれの科目を担当します。



4回生 河合 麻結



ブイ・タン・フォン 先生（ベトナム出身）

〔研究領域〕 人文地理学、商学、社会心理学

「観光」は世界平和に繋がる 素晴らしい分野であると学びました

「観光は世界に平和をもたらすことができる」。授業で先生がおっしゃっていた言葉です。「観光」は、政治などの堅苦しいことを抜きにして、多くの背景を持った人々と出会い、新しい文化に出会うことです。テレビやインターネットだけでは知り得ないその国の素晴らしさや、自国との違いを肌で感じ、実際に経験できます。就職先はソーシャルメディアに強みを持つ広告代理店にしました。観光学を学んで、日本の魅力を海外に、逆に海外の魅力を日本に発信する仕事がしたいと考えるようになりました。

ほかの国の考え方や価値観を 身につけた貴重な人材が育ちます

観光学の学習分野では、世界と日本の観光、ホスピタリティーに関する理論的、実践的な知識を得ることができます。フィールドワーク、ケーススタディー、座学、セミナー、調査プロジェクトなど、様々な手法を用いて、観光学を多角的に学びます。特に重視しているのは、実際に自分で体験できるフィールドワークやケーススタディーを通じての学びです。卒業後はホテルや旅行会社、観光関連のコンサルタントなどの職に就く事が考えられます。2012年頃から海外からのインバウンド観光客が急激に増加しています。特に今、経済発展が著しい東南アジアの人たちが多いので、彼らの価値観、観光の仕方や、生活習慣を理解することで、日本のマーケットとして何ができるのか、観光学の観点から文化的にどんな影響があるのかを、フィールドワークやケーススタディーを通じて学んでいます。APUはキャンパス自体が国際的なので、その環境の中で学生たちは互いにほかの国の考え方や価値観を実践的に身に付けることができ、観光市場にとって貴重な人材となります。



4回生 丸山 苑子

アジア太平洋学部の学びの目標は、幅広い知見と視野を身に付けて、社会に出てから応用できるグローバル人材を育てることです。様々な分野を横断的に学ぶことで、どんな課題に直面しても対応できる思考の柔軟性と応用力を養います。



総田 芳憲 先生

〔研究領域〕国際政治、安全保障、東アジア地域研究

国際社会の多様な問題を理解し 解決方法を探ります

国際社会は、個人、企業、民族、NGO、国家、国際機関など様々な主体により構成されています。それらの主体間の関係は、国際社会や国家の構造・体制、個人や集団の思想・信条など、主体の属性の影響を受け、戦争、テロ、独裁、搾取といった対立関係を生む一方で、対地雷禁止条約、温暖化対策のバリ協定、欧州連合の発展などに見られるように協力関係も生んでいます。「国際関係」学修分野では、政治学、法学、経済学、歴史学など様々な学問の知見を活かした「国際関係学」を基礎とし、国際社会を構成する主体間の様々な関係、並びに、それらの関係から生じる多様な問題について理解を深め、解決方法を探ります。そのために、全ての学生が、学問的な分析力、情報リテラシー、異文化間コミュニケーション能力を養います。APUでは、学生と教員の半数が日本国

外の出身で多様性に富んでいるため、異なる視点を持つ教員や学生と国際社会の問題について議論をすることが出来ます。

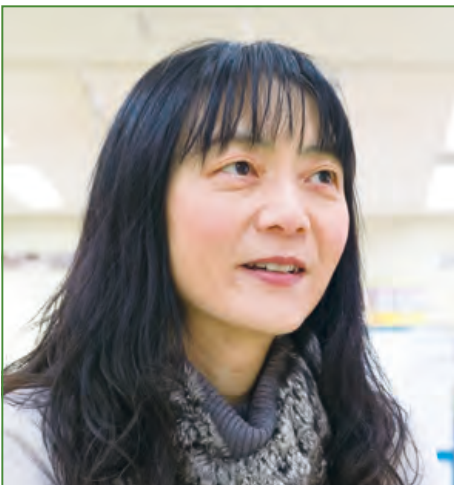
そのような学習環境を生かし、よりよい国際社会を実現する方策を探りましょう。



3年生 菅野 悠

自分が調べたい問題を 深掘りすることもできます

大学に入る前、初めて海外に在住した時に、民族問題やテロ、宗教問題などを肌で感じた経験をきっかけに国際関係の問題に興味を持ち始めました。東アジアを中心とした政治問題、紛争問題は勿論、国際関係系のゼミに入れば、自分が調べたい問題を先生と相談しながら深掘りすることもできます。私は、中国の「一帯一路」構想が新興国にどのような影響を与えるか、日本政府は安全保障の観点からどのような試みを行っていくべきかなどを、研究しています。



吉田 香織 先生

〔研究領域〕メディア研究（ジェンダー、エスニシティ表象など）、カルチュラル・スタディーズ、ポピュラーカルチャー

社会の中の様々な「当たり前」を問い直す 深い批判的思考力が身に付きます

文化・社会・メディア学修分野は、他の多くの分野においても必要とされる理論的知識や思考の基盤を成すと言えます。この分野では、様々な文化における日常あるいは儀礼的行動、ある地域またはグローバルな規模で起こる社会・文化現象、多種多様なメディアから創られる情報世界などについて、学術的理論に基づき、広く深い観点から調査・分析、議論し、解明していきます。その過程では、この学修分野の大きな特徴の一つである、自明とされる概念や事柄について多角的な視点で問い直し、ひとつひとつの事象を徹底的に追及していきます。具体例としては、グローバル社会の中にある多様な地域における行動様式についての研究、昨今頻りに議論されている社会の中のマイノリティー・グループ（ジェンダー、民族、移民など）の研究、SNSを含むメディアの社会・政治的影響についての研究などが挙げられます。テクノロジーの発展や情報過多による「思考停止」が問題視されるなか、「当たり前」を問い直す批判的熟考力、問題発見・分析力、論理的思考・構成力などを身に付けた人材を育てます。



4年生 近藤 ほのか

メディアの影響力に興味を持ち この学修分野を選びました

アイルランド留学中に、マンガが世界各国の人々に読まれている実態を目の当たりにし、人々や社会にメディアが与える影響力に興味を持ち、この学修分野を選びました。私はメディア学を通して次の三つのことを学びました。一つ目はメディアが人々に与える影響・効果や人との多様な関係。次に、一つの答えを導き出すためには、様々な角度から物事を考える必要があること。そして、一つの物事に対して正解というものではなく、様々な解答があることです。

オンキャンパス、オフキャンパスの両方で多くの気づきと学びを得た学生時代 学生の4年間

興味を持ったことを
すべて全力でやらせてもらえました



Feature

原口 佳奈子 さん (HARAGUCHI Kanako)
アジア太平洋学部 4回生
東京都出身

もともと小さいころから、夏休みの間にアメリカンスクールに通ったり、叔母がイギリス人と結婚したりなど、英語に触れる機会が多く、英語が話せたら様々な人といろいろな話ができるだろうなと思っていました。高校生のときにK-POPが好きになり、韓国語の勉強も始めました。英語と韓国語を勉強でき、かつ寮生活ができるAPUはとても魅力的だと思い、入学を決めました。私は自分がその時に興味あることをやっていけば、その先に自分が本当にやりたいことが見えてくると思っています。ですから、遠回りしてでもいいので自分が興味を持ったことに全力で取り組みたいと考えています。APUの環境に身を置いていたからこそ、自分が興味のあることに全力で取り組む機会を得ることができました。



1回生

1回生ではFIRST（海外学修プログラム）に参加をして、韓国に行きました。みなさん優しくて、ちょっとお店に寄って行きなよとか、冷蔵庫から何か出してきた、これ飲んでごらんよとか、いろいろ勤めてくださいました。セウォル号が沈没した直後で、それについてどう思うかと、一度聞かれたことがありました。グループの中で私しか韓国語をしゃべれなかったのが、大げさですが、私の意見が日本人全体の意見として捉えられると思い、自分の言葉に責任を感じました。



FIRSTに参加し、韓国に行きました。私の意見が日本人を代表すると思い、責任を感じました。

2回生



2回生ではRAをやりました。全くの手探りでしたが、年間で大小10回ぐらいイベントを運営しました。

2回生から3回生の春セメスターまで、1年半RA(レジデント・アシスタント)をやりました。1回生のときに自分が大変だった時に支えてくださった先輩がいて、それ以上のことを後輩にしてあげたいと思ったのがきっかけです。イベントの企画などはしたことが無くて全くの手探り状態でしたが、年間で大小10回ぐらいイベントを運営しました。APUの4年間で振り返った時に、寮生に「APハウスでの生活が一番楽しかった。」と思ってもらえるような寮づくりをしたいと考え、行動していました。

3回生

3回生の時は地元のフドーキン醤油・東京のコンサルティング会社・APUが共同開発した、ハラール醤油のプロジェクトに入り、ハラール醤油を作りました。ムスリムの人をはじめとする、様々な価値観、バックグラウンドを持つ人たちに試食してもらって味はどうか、香りはどうか、粘り気はどうか、どういう料理で使いたいか、価格帯はどうか、パッケージはどうかなどの質問をどんどん投げ掛け、どういうものを作れば良いかをみんなで考えて、製品化しました。



ハラール醤油プロジェクトに参加。どういうものを作れば良いかをみんなで考え、製品化しました。

4回生



自分の就活経験を生かすためSCAになり、自己分析のイベントなどを開いて後輩のサポートをしました。

4回生では、キャリアオフィスと一緒に自分の就活の体験を通して後輩の就活を手伝うSCA(スチューデント・キャリア・アドバイザー)になり、自己分析のイベントなどを開いて後輩のサポートをしました。自分がAPUに入ってから様々な事を経験し、その結果としていろいろな事を考えて将来が決まったので、進路で迷っている後輩たちにも「大丈夫だよ」と伝えたいと思い、この学生スタッフに参加することにしました。

卒業生に聞く 「APUで何を学んだ？」

素晴らしい友達、先生と出会えたことで、 その後の人生が大きく変わりました

現在の仕事に就いたのは、在学中に休学し、アフリカでインターンなどをしていた際に会った、海外のドキュメンタリーに関わる写真や映像制作に携わっている方の影響を受けたからです。もともと、社会学・人類学やジャーナリズムへの関心は高かったのですが、実際に世界の現場でそうした仕事をしている人たちに会った時に、大きく心動かされました。特にイギリスやオランダで活躍する、Visual Storytellingなどと近年呼称される、社会的なテーマを扱うドキュメンタリーでありながら大胆な表現方法や視覚的アプローチを行う写真家や映像作家から、自分は強く影響を受けました。卒業後は映像制作会社2社に勤めた後に独立し、写真家・映像ディレクターとして、作家としての社会的な作品制作から国内外を問わず政府機関・企業・NPOなどの広告制作や雑誌、メディア関係の仕事をしています。

国外のクライアントや海外でのプロジェクトに関わることも少なくないので、そういう時にはAPU時代に培った経験が大きく生きています。また個人の作品としては社会的なテーマを一貫して扱っており、様々な社会の事象を調査するにあたって、APUで学んだことがその視点作りに本当に役立っています。社会における様々な二項対立に陥りがちな諸問題へ新しい視点を作る仕事をし続けることが、自分の目標です。

APUでの生活を通して、自分の中にあるたくさんのステレオタイプに気付くきっかけを、色々なバックグラウンドを持つ留学生の友達から教わったと思います。しっかりと批判、評価し合える友達や、先生に出会えたことが、APUで得た大きな財産です。他人の目を気にせずに、自分のペースで、自分のやるべきだと思うことに集中する大切さを教えてもらいました。私はAPUへの入学前に中学から高校にかけて3年間、いじめが原因でひきこもりだった時期があったこともあり、大学入学時も非常に屈折していた部分を持っていたように思います。そうしたものをすべて包み込んでくれるような素晴らしい友達、先生に出会えたことで、

互いを尊重する心を大事にし 仕事をしています

日立ソリューションズで、デジタルマーケティングやビッグデータ分野の営業として仕事をしています。具体例を挙げると、プロスポーツ業界のお客様に対し、チケット販売やファンクラブ管理のソリューションを提供しています。今の仕事は私のような営業担当と、システムエンジニアがチームを組んで行いますが、両者がうまく連携し、お客様に対して最善の結果を提供することを求められます。ところが、技術系のスタッフと営業担当者では使う言葉も、感覚も違いますので、コミュニケーションをとることが難しい場合があります。そんな時、APUで2回生から4回生まで先生の授業の補助をする、TA（ティーチング・アシスタント）をしていた経験が役に立っています。言葉や文化が違う国際生とペアを組み、先生がうまく授業を進められるように準備をするには、相手が何を考えているのか、何をやりたいのかを、相手の立場に立って考え、コミュニケーションをとらなければなりません。時には、意見が衝突することもあります。しかし、お互いに顔を合わせ、一緒に仕事をすると、互いを尊重する心が芽生え、チームワークが生まれます。私は今でもこの時の自分を思い出し、どうすればチームメンバーは快適に仕事ができるのか、どうすればお客様が求めているものを提供できるのかを念頭に置き、直接顔を見ながら仕事を進めるようにしています。APUの多文化環境で学んだ経験は、社会に出てから大きな財産となります。

様々な背景を持った友人たち、親身になって支えてくれた先生や職員、我が子のように迎えてくれた別府の人々と交わった経験は、その後の人生を変える気付きや将来の目標を与えてくれた。



岡本 裕志 さん

写真家 / 映像ディレクター
APS 2014年卒業

本当にその後の人生が大きく変わりました。

留学生が半数に上るような環境でやっていけるかどうか心配する方もいらっしゃるかも知れません。しかし、海外に一人で留学することと比較すれば、そんなに気負う必要はないと思います。また都市部ではなく、あえて別府という場所にあるからこそ、都会の国際的な大学の環境とは異なるのもAPUの魅力です。留学生はもちろん、別府、大分のローカルの人々と混ざり合った学生生活は、きっとかけがえのないものになるでしょう。それに加えて、学生が望めば、非常に近い距離で関わってくださる先生や職員の方が多かったと思います。授業や手続きなどに限らず、大学生活全般で親身になって相談に乗ってくれました。



吉村 あやめ さん

株式会社日立ソリューションズ
営業統括本部 デジタルイノベーション営業本部
デジタルソリューション営業部
APS 2015年卒業

互いの違いを乗り越え、協働学習するための土台づくりに。

初年次教育

入学後には、グループワークを通して他者を理解し、協働して課題に取り組み、APUでの大学生生活に必要な力の修得をめざす、1回生演習やピアリーダートレーニング入門の授業があります。助け合い、ときにぶつかりあうなかで、お互いを理解するとともに、自分の強みに気づき、目的意識や学習意欲を高める講義です。

国際学生とコミュニケーションを深める。〈1回生演習〉

I スタディスキル・アカデミックライティング

II 多文化協働ワークショップ

「I」は言語基準別のクラス編成で、大学での学修に必要な文献調査の方法やレポートの書き方、引用の仕方やルールなどのスキル獲得を目標とした科目です。

「II」は、多様な国・地域の学生が学ぶ環境を活かし、異文化や価値観への理解、国内・国際学生の交流を深めることを目標に、国内学生と国際学生が同じクラスで学びます。集大成は日英二言語で行うプレゼンテーション大会です。



「APUでの学び方」を学習する。

ピアリーダートレーニング入門

自分の目標にあわせてAPUの多文化環境を有意義に活用する力を養う授業です。また、対人関係能力や日英二言語でのディスカッションの方法、タイムマネジメントといった積極的なAPUライフを送るうえで求められる力も学びます。

「学びあう」のが APUのスタイル。

ピア・ラーニング(協働学習)

言語や文化の異なる学生たちが互いに教えあい、協働しながら成長する仕組みをAPUは大切にしています。先輩学生のサポートのもと、言語学習や少人数制の演習などさまざまなシーンで学生同士の学びあいが見られます。



「学びの介助」のなかで
成長できる

ピア・リーダーの育成

先輩学生によるピア・リーダーの役割は、低回生の学びを深めるサポートだけが目的ではありません。低回生に対しての接し方、グループワークの導き方、国内・国際学生が力をあわせる環境のつくり方など、国際的なチームワークの場面に求められるファシリテーション(協働を促進させる)のスキルを、研修や実践を通して学び、ピア・リーダー自身の成長も強く意識された取り組みです。

先輩学生がAPUでの
学びをサポート

TA ティーチング・アシスタント

大学院生や学部生が講義や演習の補助を担当します。ワークショップやグループワークの進行、資料検索の補助、またレポート作成やプレゼンテーションのアドバイス、ほかにも生活面での相談などにも対応します。

国際教育寮APハウスの
生活補助

RA レジデント・アシスタント

寮の運営に携わり、国内学生・国際学生の共同生活をサポートする学生スタッフです。APハウス内で開催されるイベントの企画・運営も行い、相互のコミュニケーションを促進するリーダー的な役割を担います。

»Interview

不安を解消するお手伝いをしたくてRAになりました

1回生で初めてAPハウスに入寮した時に、RAの先輩がすごく暖かく接してくださいました。おかげで、知らない土地に来てすごく不安でしたが、不安が解消されてAPUの生活にうまく馴染むことができました。国際学生、国内学生を問わず、私もそういうサポートをしたいと思い、RAになりました。RAになってみると、同じところには住んでいますが、寮生だったときは全然違いました。1回生を見守って育てていくという責任があって、どうすればうまく任務を遂行できるか、問題が起きた時にどうすれば解決できるのかについて深く考えながら、1年半濃厚な時を過ごしました。



アジア太平洋学部 3回生 [RA]
古谷 百江さん

海外留学制度 海外で行動し、実践し、 世界を生きる力を身につける

世界の縮図であるAPUで多様な言語や文化に触れるなか、学生たちは国際社会を意識した成長を遂げていきます。その上で、さまざまな利害関係があり、異文化間の摩擦や対立も存在する原寸大の「リアルな世界」に飛び出して学ぶことをAPUは推奨しています。厳しい世界の実情を知り、たくましく生きる力を身に付けることをめざし、例年数多くの学生が海外での学びを体験しています。



留学プログラム ひとつの型にはめない、目的に応じて選べる多様なプログラム。

<p>海外でのリサーチ実践 APU Global Research Program</p> <p>国内外の協定校へ長期留学 Student Exchange</p> <p>専門知識を実践に活かす Field Study / Field Research Project</p> <p style="text-align: right;">専門</p>	<p>4年間で2つの学位を取得 Double Degree Program</p> <p>国内外で幅広い就業体験 Internship</p> <p>東南アジアで日本発信 日本語パートナーズ</p> <p>海外で教育の現場を体験 SEND</p> <p>言語学修と海外インターンシップで キャリア観形成に橋渡し Service Learning</p> <p style="text-align: center;">キャリア</p>
<p style="text-align: right;">異文化</p> <p>海外での学修と実践活動 THIRD</p> <p>異文化にまず触れてみる FIRST</p> <p>海外での協働学修を体験 SECOND</p> <p>入学前に留学 ACCESS</p>	<p style="text-align: center;">言語</p> <p>海外で集中的な言語研修 Language Immersion</p> <p>本格的なアメリカの教養教育を受講 GCP</p> <p>必修英語を海外で学ぶ EXCEED</p> <p style="text-align: right;">掲載プログラム 詳細はこちら</p> 

異国で非言語コミュニケーションスキル獲得に挑む

FIRST ■ Freshman Intercultural Relations Study Trip ■

FIRSTは1年生向けの海外学修入門プログラムです。2007年度以来、これまでに1,000名以上の学生が参加。最大の特徴は、学外実習で取り組む「異文化オリエンタリング」で、少人数のグループごとに目的地を目指しながら、200人を超える市民にアンケート調査などのリサーチ活動を行います。各グループにはTA (Teaching Assistant) が同行しますが、実習中は参加学生がリードします。



目的地は到着後くじ引きで決定され、観光では訪れない小都市が指定されることもあります。世界の言語、文化やその地域の人々との交流に興味を持ち、APUの国際的な環境を最大限に活用したいと考える学生に最適のプログラムです。

	国内学生(春実施)	国際学生(秋実施)
実習時期	6月(4～5日間)	11月(4～5日間)
滞在形態	参加者自身で現地手配	参加者自身で現地手配
研修言語	日本語	英語
派遣国・地域	韓国、台湾等	九州
募集時期	4月	9月
募集人数	300名	48名
申請資格	1・2セメスター生の国内学生 および日本語基準国際学生	1・2セメスター生の 英語基準学生
単位数	2単位	2単位
費用	約7万円	約4万円

東南アジアで高レベルの異文化観察力向上を目指す

SECOND ■ Self CONfirmation and Development program ■

SECONDは、1～3セメスター（国内学生・国際学生）を対象とし、東南アジア地域での調査活動を通して、東南アジアの文化的多様性の理解を目指すものです。東南アジア4カ国を縦断しながらアンケート調査を実施し、それぞれの文化の違いに直接触れる機会を設け、多様性を理解します。調査活動は事前準備から一貫して国内/国際学生混在の少人数グループで実施し、日英両言語の使用が求められます。互いに日本語、英語が不自由な低回生同士だからこそ、間違いを恐れず思い切って両言語での学修に挑戦することも大きな特徴です。調査研究の基礎を学び、多文化協働学習に取り組みたい皆さんは、是非参加してください。



互いに日本語、英語が不自由な低回生同士だからこそ、間違いを恐れず思い切って両言語での学修に挑戦することも大きな特徴です。調査研究の基礎を学び、多文化協働学習に取り組みたい皆さんは、是非参加してください。

実習時期	〈夏実施〉8月～9月(約2週間) 〈冬実施〉2月～3月(約2週間)
滞在形態	参加者自身で現地手配
研修言語	日本語および英語
派遣国・地域	シンガポール、マレーシア、タイ、ラオス
募集時期	〈夏実施〉4月 / 〈冬実施〉9月
募集人数	〈夏実施〉70名 / 〈冬実施〉70名
申請資格	1～3セメスター生(国内学生・国際学生)
単位数	2単位
費用	約15万円

テーマに沿った授業や実践活動でグローバルスキルを磨く

THIRD ■ THeme-based Intercultural Relation expeDition program ■

THIRDプログラムは申請時2～5セメスター生を対象とした、短期留学型のグローバルスキル探求プログラムです。経験学習による異文化学習を基本とし、さらに長期間、英語と日本語によって開講されるアジア太平洋の文化・社会を学ぶ教養科目と、テーマベースのインターンシップ等の実践活動および必要な知識や語学を身に付けるための準備科目によって構成され、グローバル人材として



必要不可欠なスキルの修得を2カ月間の滞在で目指します。「ビジネス」「農業コミュニティー」「貧困対策」など、テーマに沿った授業や実践活動が準備され、学んだ知識をすぐに実践の場で応用できるのが、このプログラムの醍醐味です。

実習時期	〈春実施〉6月～7月(約2カ月間) 〈秋実施〉10月～11月(約2カ月間)
滞在形態	学生寮等
研修言語	日本語および英語
派遣国・地域	タイ
募集時期	〈春実施〉1月 / 〈秋実施〉5月
募集人数	各回約25名
申請資格	申請時に2～5セメスター生である者 日本語基準: 英語中級A・B修得済み 英語基準: 日本語上級修得済み以上を推奨
単位数	6～8単位(テーマによって異なる)
費用	約35万円(テーマによって異なる)

在学中に海外大学に2年留学し、APUと留学先の2つの学位を取得

ダブルディグリー・プログラム ■ Double Degree Program ■



St. Edward's University (SEU) / アメリカ



Salzburg University of Applied Sciences (SUAS) / オーストリア

Off-campus Study Programで最長の留学期間を誇るこのプログラムでは、2つの大学に約2年間ずつ正規在籍し、APUと派遣先大学がそれぞれ展開する世界基準の教育カリキュラムで学び、異なる国の2つの学位を取得します。長期間の留学経験が卒業後の高い評価に繋がるだけでなく、異なる教育システムで学ぶことで世界に通用する多角的視野と教養、思考力を身に付けることができます。海外大学で正規留学をする際に大きな課題となる就職活動も、4年生時にAPUで学ぶ本プログラムであれば、不利なく進めることができます。

※追加学費不要。 ※2019年度はアジア太平洋学部（APS）のみを対象に実施



Kyung Hee University (KHU) / 韓国

APU教員の指導のもとに国内外の現場で調査・研究活動を行う

フィールド・スタディ/プロジェクト研究 ■ Field Study / Field Research Project ■



フィールドスタディとプロジェクト研究は、教員の指導のもとで、各学部の専門分野に関する現場で調査・研究活動を行い、自らの興味・関心を深め、専門的な理論と実践の架け橋となるプログラムです。アジア太平洋学部では、1回生から「環境・開発」「国際関係」「観光学」「文化・社会・メディア」の4分野を包括するプログラムに、2回生以降に各分野に特化したプログラムに参加し、専門学修の強い動機付けを行います。国際経営学部では多国籍企業が成立した背景を企業視察を通して学ぶプログラムや、社会変革を実践している社会起業家をテーマとしたプログラムを展開。これらのプログラムでは、現場に行く「経験」だけでなく、事前・事後授業を通してテーマに関する知識を深め、APUでの学修に役立つ知識やスキルを高めることができます。

実習時期	数日～30日間(セメスター型)、1～3週間(短期集中型)
滞在形態	ホテルまたはホームステイ等
研修言語	日本語または英語
派遣国・地域	インド、タイ、ロシア、インドネシア、スイス、フランス、日本等
募集時期	6月～7月/12月(セメスター型)、4月/10月(短期集中型)
募集人数	5～30名(プログラムによって異なる)
申請資格	プログラムによって異なる。日本語基準国内学生が英語開講のプログラムに参加する場合は、英語中級履修済み セメスター型:3～8セメスター生 短期集中型:3～7セメスター生(一部、2セメスター生から可)
単位数	2単位または4単位
費用	1～42万円(プログラムによって異なる)

山田 舞 (APS 2回生)

2018年9月 インド・タイ



環境開発のことや、人の幸福度について学びたいと思いプログラムに参加しました。現地では国連の機関やJICA、そしてスラム街など多くの場所を視察しました。そこでは、教科書や講義では知ることのできない、想像を越えた現実がありました。個人の旅行では叶わない、実社会の第一線を視察でき、その場で先生により詳しい内容を教えていただくなど、疑問を解決することができるこのような機会は、APUのフィールドスタディの利点だと感じました。これをきっかけに、現在は周辺環境による幸福度についての学びを深めています。

海外インターンシップで、キャリア選択の視点を養う

サービスラーニング ■ Service Learning ■

英語学習とサービスラーニング実習（インターンシップ、エクスターンシップ、ボランティアなど）を組み合わせた正課の海外学修プログラムです。APUのクォーター制度を有効活用することで、セメスターの内の1クォーターをAPUで通常履修、もう1つのクォーターを海外学修することができます。APUで行う事前授業、派遣先大学での集中英語学修とサービスラーニング実習、帰国後の事後



授業から構成されています。サービスラーニング実習では、派遣先大学周辺の一般企業、NGO等で社会貢献活動等に取り組みます。自らの学修・獲得目標について深く考え、働く事を意識しキャリア観の形成、進路選択に向けた視点を養います。

実習時期	8月下旬～11月下旬(約3カ月間)
滞在形態	学生アパート
研修言語	事前/事後授業:日本語および英語、現地実習:英語
派遣国・地域	アメリカ(テキサス州 オースティン)
募集時期	12月～1月
募集人数	約20名(予定)
申請資格	申請セメスター終了時に英語中級単位修得済み 日本語基準学生(優先)、申請時1～6セメスター生
単位数	8単位
費用	約95万円(渡航費別)

派遣国・地域の教育や国際化に寄与する教育インターンシップ

SEND ■ Student Exchange Nippon Discovery ■

SENDは、日本人学生が海外の教育機関において日本語教育支援や日本文化紹介等を行うことを通じて、派遣国・地域の教育や国際化に寄与することを目的とした教育インターンシップです。派遣学生は草の根レベルでの交流を通じて、現地の言葉や文化に対する理解を深め、将来は日本と派遣国との架け橋となるような人材育成を目指すプログラムです。異なった文化背景の中で与えられた



ミッションを達成していくことにより、日本にいてだけでは気づく事が出来ない自分の「強み」と「課題」について考察し、キャリア観の形成・進路選択への一助とすることを目的としています。

実習時期	〈夏実施〉8月～9月(3～4週間) 〈冬実施〉2月～3月(3～4週間)
滞在形態	ホームステイまたは学生寮
研修言語	事前/事後授業:日本語、現地実習:日本語および英語
派遣国・地域	タイ、ベトナム
募集時期	〈夏実施〉4月/〈冬実施〉10月
募集人数	各回約15名
申請資格	2～7セメスター生
単位数	4単位
費用	10～15万円

ASEAN諸国と日本の架け橋を目指す

日本語パートナーズ

幅広い世代の人材をASEAN諸国の、主として中等教育機関に派遣し、現地日本語教師と学習者の日本語学習の「パートナー」として、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN諸国の日本語教育を支援するプログラムです。同時に、8カ月に及ぶ実習を通して現地のコミュニティと深く接する中で、“日本語パートナーズ”自身も現地の言語や文化についての学びを深め、体験を日本に発信する事で、ASEAN諸国と日本の架け橋となることを目標と



します。

実習時期	8月～3月(約8カ月間)
滞在形態	アパートまたはホテル
研修言語	日本語
派遣国・地域	インドネシア等
募集時期	6月～7月(派遣期間の前年度)
募集人数	約10名
申請資格	・申請時に1～4セメスター生である者 ・日本国籍所持者のうち国際交流基金が示す期日において20歳以上である者
単位数	16単位
費用	なし(国際交流基金からの渡航費や生活費などの補助あり)

※独立行政法人国際交流基金との協定プログラム

「世界」と暮らす学生寮

国際教育寮 APハウス

国際学生たちと共同生活を行う国際教育寮APハウス。食文化も生活習慣も、生まれ育ってきた背景がまるで異なる人と寝食をともにすることで、さまざまな気づきを得、世界を生きるたくましさを身に付けます。



学びの場として…

互いに教えあい学びあう、国際的な協働の舞台。

学外へのフィールドリサーチを実施 共同学習

上回生が務めるRA（レジデント・アシスタント）が、入寮時から大学生活を送るうえで必要となるあらゆる面においてサポートをします。セメスターごとに長崎・広島・沖縄への平和交流ツアーも開催しています。

多文化環境におけるリーダーを育成 オナーズプログラム

多文化コミュニティにおける多様性を理解し、目的に向けて組織を効率的に動かしていけるグローバルリーダーを育てるプログラムです。参加者はAPハウスで集団生活を営み、学外合宿や海外学習体験プログラムなどにも取り組みます。



国内学生と国際学生約1,300名が共同生活を行う。入寮したその時から国際学生との交流が始まります。

2019年度は約490人の国内学生がAPハウスに入寮しました。

[居室数]

1,310室

[入居者の出身国・地域]

43カ国・地域

[入居者比率]

国際学生 **47.4%**
(503名) 国内学生 **52.6%**
(559名)

[寮費]

月額 **49,000**円
(水・光熱費等含む)

(2019年5月1日現在)



シェアタイプ

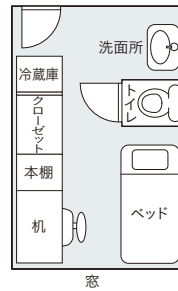


プレイルーム

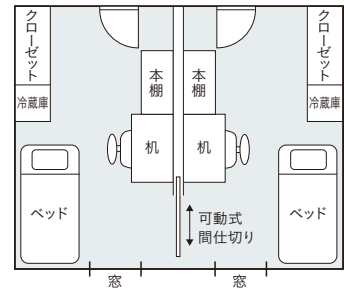


和室

● 個室タイプ
約 13㎡



● シェアタイプ
約 26㎡ (1人当たり約 13㎡)



居室設備

照明器具、机、椅子、デスクライト、冷蔵庫、ベッド、クローゼット、冷暖房、インターネット、靴箱、本棚、電話、布団一式、ゴミ箱、洗面所^{※1}、トイレ^{※1}

共有設備

ロビー、和室、大浴場、インターネットルーム、学習室、ハウスコープ、会議室、ピアノ、卓球台、屋外バスケットコート、APホール（多目的ホール）、共同キッチン、電子レンジ、オーブントースター、TV、個室シャワー、洗濯機、乾燥機、掃除機、洗面所^{※2}、トイレ^{※2}

※1 個室タイプのみ ※2 シェアタイプフロアのみ



みんなで集まって記念写真。これからの寮生活が楽しみです

生活の場として…

異文化を体感できる留学以上に刺激的な空間。

寮生がひとつになる「世界祭」

World Festival

各国の寮生が自分の文化をアピールし、「世界」を体験する毎年恒例のイベント。APハウスのフロア別に、パフォーマンス、フード、ムービーなどのセクションにわかれ、それぞれ自由な発想で催し物を行います。



入寮したその時から様々な国・地域の学生との共同生活が始まる

APハウスの全寮生が参加する一大イベント

想いがあふれる。「世界」がひとつになるとき。 キャンパスライフ

各国地域の文化を紹介するイベントを毎週のように開催 マルチカルチュラル・ウィーク

マルチカルチュラル・ウィークは年間を通して開催される、APUの中でも代表的なイベントです。さまざまな国・地域の音楽、衣装、スポーツ、踊りや言語などあらゆる文化を、一週間を通してたっぷり味わえます。これらのイベントを通し、多くの国際学生・国内学生が出身国・地域に関係なく交流しています。2018年度は12のウィークが開催されました。月曜日に行われるパレードを皮切りに、ミュージックナイトやスポーツデーなどのイベントを催し、金曜日にはフィナーレとしてグランドショーが学内の大ホールで行われます。例年は、生活文化に関わる紹介が中心ですが、年度によっては国際的な支援を考える国際協力ウィークや、ファッションウィークが開催されます。マルチカルチュラル・ウィークのイベントの企画・運営はすべて学生が行います。このイベントを通し、延べ1,700名を超える学生が活動をし、日々の運営を通して人脈を広げ、社会の中で必要なスキルを磨きます。

2018年度の実施マルチカルチュラル・ウィークのスケジュール

イベント名	実施期間
関西・ウィーク	5月14日(月)～5月18日(金)
オセアニア・ウィーク	6月4日(月)～6月8日(金)
チャイニーズ・ウィーク	6月11日(月)～6月15日(金)
バングラデシュ・ウィーク	6月18日(月)～6月22日(金)
沖縄・ウィーク	6月25日(月)～6月29日(金)
ベトナム・ウィーク	7月2日(月)～7月6日(金)
インドネシア・ウィーク	7月9日(月)～7月13日(金)
コリアン・ウィーク	10月29日(月)～11月2日(金)
タイ・ウィーク	11月5日(月)～11月9日(金)
カンボジア・ウィーク	12月3日(水)～12月7日(金)
スリランカ・ウィーク	12月10日(月)～12月14日(金)
ネパール・ウィーク	12月17日(月)～12月21日(金)





Korean Week



Chinese Week



Fashion Week



Sri Lankan Week



Okinawa Week



Indonesian Week



Nepali Week



APUは課外活動もインターナショナル。 クラブ・サークル、イベント・プロジェクト

体育系や文化系の団体はもちろん、国際的なボランティア活動や別府でのイベントの企画・運営に取り組んでいる団体などが100団体以上あります。公認団体は、必ず国内・国際学生で構成する必要があるなど、クラブ・サークル活動ひとつとっても異文化理解を深める機会となります。



国際観光都市・別府がキャンパスライフの舞台。 別府での生活

APハウスでの1年間の共同生活が終わると、別府での生活が待っています。

一人でアパートを借りる道もありますが、もう一つの選択肢は気の置けない仲間とのシェアハウス。

様々な国籍の国際学生との一つ屋根の下の生活の中で、多文化共生への理解は一層深まります。

一緒に食卓を囲み、語り合う日々から、一生の友人関係が育まれます。



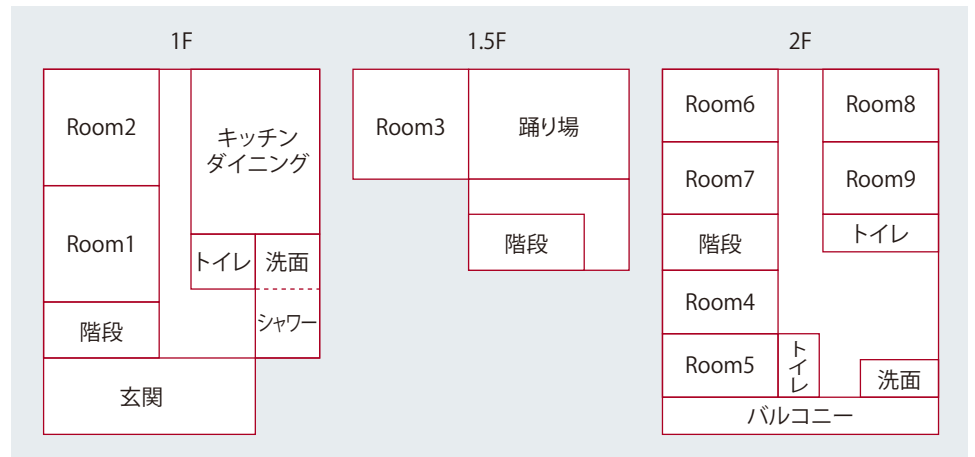
APUで利用するバスは2路線 バス路線マップ





山中 美季 さん
APS 3回生 (日本)

きっかけはAPハウスのフロアメイトの発案。「国籍が違う6人でシェアハウスしたくない?」
徒歩30秒のところ温泉がある一軒家に出会って決まりました(笑)



APU生は忙しいから結構バラバラ。でもたまに一緒になるとまるでパーティーに。



時間が合う時にはみんなで料理を作り、一緒に食卓を囲みます

みんなで助け合って生活しています。
本当に1つの家族のようです。

まるで小さなAPハウス

シェアハウスの仲間たちとはとても仲良く暮らしています。結構みんな授業が忙しくて、食事は毎日いつも一緒に食べるというわけではありませんが、みんなの時間が合う時にはなるべく一緒に食べますし、雰囲気はとても和気あいあいとしています。シェアハウスは、もともと友達ではない人と一緒に住んだりしますし、出入りもあるので、私たちは特別に仲が良いのかも知れません。

私とシバンギは、もともとAPハウスのフロアメイトでした。今は、このシェアハウスの中で一緒に

部屋で寝ていて、もう本当に一生の友達、ソウルメイトですね。最初、私はRA(レジデント・アシスタント)になってAPハウスに残ろうかと考えていたのですが、シバンギが「いろんな国籍の子とシェアハウスをするのもいいんじゃない?」と提案してくれて、それでRAになるのをやめて家を探しました。その事をアルバイト先の女の子に話したら、この大家さんを紹介してくれました。家を探すに当たっては特に細かい注文はなかったのですが、1つだけこだわった事があって、それはできれば近くに温泉があればいいなという事でした。この家を見学に来たら、徒歩30秒のところ温泉があって、夢がかなったと思って飛びつきました。

国籍もバラバラ、
将来の夢のさまざま

今一緒に住んでいるメンバーの国籍はバラバラで、サロニはシバンギの妹でインド出身、ルースはケニア出身、クララはインドネシア出身、ミャンマー出身のスー・インは、RAをしていた人で、最近ここに引っ越してきたばかりです。彼女は教育に興味があって、将来は国に戻って子供たちが楽しいと思える教育の場を作りたいという夢を持っています。それから、環境に対する意識がまだまだ低いので、そういう点も変えていきたいそうです。シェアハウスで一緒に暮らしているといういろいろなことを語り合うので、彼女の将来の夢もメンバーはみんな知っているんですよ。

ここに暮らしている人たちが、一つ屋根の下でみんなうまくやっているのは、みんなAPハウスに住んだ経験があって、最低限のマナーはその時に学んでいるからかも知れません。ここに暮らしている人たちは、みんな心が温かいんですよ。みんなで協力して、助け合うのが当たり前だと思っています。例えばシバンギが何かを作ってみんなで食べて、後片付けは私がやったり、他の人がやったり、みんなそういう事を自然にできるんです。だから、本当にここは1つの家族みたいです。



インドからの留学生シバンギさんとはなんでも話せる仲、一生の友達です



01 Corporate Perspectives

伊藤忠商事株式会社

代表取締役 専務執行役員
CAO

小林 文彦 さん



ダイバーシティの存在を 当然だと思えるのは1つの能力です

当社は幅広い仕事をしており、商流の川上から川下までほぼ全領域のビジネスに関わっていると言っても過言ではありません。従って、あらゆるタイプの人がいます。ただ、ビジネス自体が変化のスピードが非常に速いのと、ビジネスのステージが海外だったり、国内だったり、お客様によって変わるため、入社してずっと特定の商品を作り続けるだとか、特定の領域の人とお仕事し続けるということはずがありません。さらに、お客様だけではなくて政府・NGOだとか、様々な利害関係が登場してきます。流れて行くあらゆる状況にスピーディに対応していかなければならない環境です。そういう変化に対して柔軟性を持ち、多様な関係者の方々を上手に巻き込んで仕事をしていくという、コーディネーション能力が強く求められます。

そういった能力を最初から求めるというのは難しい話で、少しずつ身に付けていくこととなります。私はどのような人と仕事をすることに際しても、それが政治家であっても、ビジネスマンであっても、基本的には誠実な人でないと立派な仕事はできないと思っています。相手が政府の高官であれ、大企業のトップであれ、皆同じ人間ですので、基本的には誠実な人でなければ受け入れてもらえない。信用していただけないし、懐に飛び込んでいくこともできないと思っています。過去様々な事例や体験を通じてそれは確信しているところです。

従って最も大切なのは何かと言えば、「人間として誠実である」ことです。これだけは外せません。あとは、環境の設定と育て方によって、人はいくらかでも成長していきだろと私は思っています。

当社は従業員一人当たりの教育関連経費が、商社の中でトップクラスです。これには私どもの人員数が同業他社と比べ30~40%少ないという

理由があります。少ない人員で同じように業績を上げ、競争していくには、それなりに生産性が上がらなければいけないし、本人が活性化していかなくちゃいけない。そういうことも踏まえると、教育への関心も自ずと高くなり、社員教育に関しては時間、お金ともかなり費やしています。

誠実さをベースとしたコーディネーション能力を磨くということをもう少しかみ砕いてご説明しますと、やはりコミュニケーションを円滑に進める力、相手を説得する力、相手と同調する力、ないしは共感する力などを養う場が大学の中で必要だろうと思っています。

APUは国内生と国際生の割合がほぼ半数で、しかも国際生は世界約90カ国から来ているという多様性に富んだ特色があります。こうした環境で国際性が磨かれるのでしょうか。世界にはいろいろな環境がある、いろいろな人がいる、いろいろな国民性がある、いろいろな考え方があるということを当然だと思う力が自ずと身につくのではないのでしょうか。あらゆるダイバーシティが自分の周りに存在することを当然だと思って受け入れるということは、やはり一つの能力です。

APUの卒業生は、入社する時点でその人の精神的フィールドが地球規模であるというのでしょうか、そういう特色はあると思います。最近、学生は皆さん誰でも旅行をしたりして、海外に行ったことがない方はほとんどいないでしょう。そういうことではなくて、APUの学生は、日常の自分の意見を持つ場において、ダイバーシティの中で判断するということを、当然だと考えていらっしゃる。語学も優秀な方が多いから、基本的には商社であっても直ちに、国際業務、海外と対面の業務に、違和感なく入っていける方々だと思います。

ビジネス環境のグローバル化が進み、業界の枠組みも大きく変化している中、
多文化環境で鍛えられ柔軟性が高いAPU生は、将来の企業活動をリードする存在として期待されています。

オープン、タフネス、パブリックマインドを持った人 を採りたいですね

弊社はまさにグローバル企業で、グループ会社約700社のうち半分以上は海外の会社です。売り上げの4割も海外です。東京の本社ビルでも外国人の方がたくさん働いていますし、経営幹部にも外国人が何人もいます。重要な会議の資料も、日本語だけではなく英語も用意することになっています。これから、もっともっとグローバル化していくことになるでしょう。

弊社で求める人材というのは、語学ができればそれに越したことはないですが、語学力よりも重要なのは、その人がオープンな心を持っていることです。いろいろなものに対して、固定観念にとらわれないで何でも積極的に受け入れる心です。次に、どこへ行ってもくじけず、違った環境にも慣れるタフさが必要です。それと私は、パブリックマインドを持って欲しいと言いたいですね。需要というのは人々を幸せにするところから生まれるのだと思います。その結果、利益が出て企業が存続できる。弊社は製造業なので、例えば自動車を軽量化できる素材とか植物由来の樹脂とか世の中の役に立つモノを作ることが大事です。最近はおもすると、マネーゲームに走ったり、目先の利益を追求するような風潮があります。もちろん、会社だから利益は出さなければいけません。しかし、長期的に成長していくには、どうすれば役に立つモノを作れるのかということから出発することが一番重要です。その原点はパブリックマインドだと思います。

弊社の海外のプラントはだいたい1990年代に立ち上げました。当時立ち上げに携わった方たちは、文化や商習慣、生活習慣が異なる中で、ものすごく苦労されたようです。私もインドネシアの工場に行ったことがあります。ジャカルタから車で2時間ぐらい走った、山林を切り開いたようなところにあります。そこで、現地の方を雇って、その方たちに

技術指導しながらずっと運転してきた。今はそこで育ってきた方が主体となって事業を運営しています。現地化ですね。工場長も現地の方です。

海外に駐在して仕事をしている日本人社員もたくさんいます。営業、リサーチ、人事・経理の部門のほか、プラントでも、例えば、新しい設備や製造ラインを海外に展開するときは日本の技術者が行ってやります。海外で働くときには、現地の人たちや他の国から来ている人たちと上手くコミュニケーションを取りながら、自分も一定期間はそこに住んで、事業を上手くマネジメントできる人が必要です。

APUを訪問した時に、忽然と山の上に大学が現れて、敷地が広くて、外国の大学のような印象を受けました。そこで学ぶ6,000人の学生のうち半分は外国人で、外国人と日本人がチームを組んで一つのテーマを勉強したりしている。日常生活も一緒なので、言葉を学び合い、互いの文化にも接する。しかも外国人の方は日本人と違う発想をするので、自然にダイバーシティを学び、いろいろな発想も身に付く。グローバル人材を育成する非常にいい仕組みができていたと思います。

訪問してみると、APUの学生は、やっぱり何かグローバルに活躍したいという気持ちで来ている人が多いという印象を受けました。それから、受験勉強が終わって大学に入ったら楽をしたいという大学生も中にはいると思いますが、APUには英語の授業についていくのが大変だとわかっていても、取ってそれにチャレンジするという、意欲のある学生が入ってきていると思います。

APUには2、3カ月の短期留学みたいなコースがあって、企業から派遣することもできると伺いました。弊社も海外に勤務する従業員が多いので、例えば海外勤務の前に2、3カ月研修を受けて、肩慣らし的に語学や異文化理解のトレーニングを受けるということも考えられるかなと社内で話しています。



02 Corporate Perspectives

株式会社三菱ケミカルホールディングス

広報・IR室長
羽深 成樹 さん

求められるグローバル人材として。APUだから可能な未来がある。 キャリア支援

今、社会で求められている「グローバル人材」は、まさにAPUで育つ人材像に合致します。だからこそAPUは例年高水準の就職実績をおさめており、希望進路を実現できる「強さ」を発揮しています。経験豊富なキャリアオフィスのスタッフの手厚いサポートのもと、国際的な舞台へまっすぐに歩いていける環境がAPUにはあります。社会に羽ばたいた卒業生たちのように、グローバルに活躍する未来をAPUで実現してください。



企業がAPUで採用活動を実施

国内・海外での就職や大学院進学など多様な進路希望に対応するため、さまざまなキャリア開発プログラムを設けています。将来の目標を明確にするキャリアデザイン科目をはじめ、企業や官公庁でのインターンシップ、各業界を代表するリーディング・カンパニーの講演会など年間200回以上の企画を、企業・卒業生と学生・教職員と一緒に運営しています。

企業や世界で「仕事」を体験しよう



インターンシッププログラム

Internship Programs

企業や自治体などで実務に携わり、仕事への理解を深めるプログラムが充実しています。大学と企業・団体が協定を結んでいる「協定型」では一定条件を満たせば単位として認定されます。国内はもちろん、海外の企業、政府機関、NGOなどへのプログラムが豊富なこともAPUの特色です。

未来を具体的に考える
キッカケづくり



キャリア・プランニング・ウィーク

Career Planning Week

すべての学生が「自分らしい未来(キャリア)」について考えるための手掛かりを見つけるイベントです。国内外で活躍する社会人・卒業生を招いた講演やワークショップなどを実施。将来の目標や働く意義を再確認し、より充実した学生生活を過ごすキッカケづくりにつなげていきます。

卒業生のもとで
インターンシップ



GAIA

Global Internship with Alumni

国内外で活躍している卒業生のもとでインターンシップを行うプログラムです。卒業生をロールモデルとすることで、社会に必要な実践的なスキルや知識を学ぶだけでなく、卒業生がAPUでの学びやネットワークを社会人としてどう活かしているかなどについても学ぶことができるプログラムです。

キャンパスにいながら
人気企業の説明会に参加できる



オンキャンパス・リクルーティング

On Campus Recruiting

企業や各種団体の人事担当者がAPUのキャンパスを訪れ、説明会や面接などの採用活動を行う独自のキャリア支援プログラムです。業界を代表する企業や気鋭のベンチャーなど、APUの学生の採用に積極的な約200社が参加。例年、多くの就職内定につながっています。

業界の実際を知る、
絶好のチャンス



業界別ガイダンス

Industry-focused Seminar

各業界のリーディングカンパニーが、業界の使命・役割、働き甲斐、仕事内容、どのような日常を送っているのかについて知る機会です。また、その業界で活躍するためには、どのような人柄・志向性が求められるのか、学生時代にどのような経験を積むべきかなど、目指すキャリアの道筋について、学びます。

自分の将来について
考える機会



就職活動ガイダンス

Career Guidance

この就職活動ガイダンスは、就職活動の進め方を理解するためのものではありません。近年、「AI(人工知能)が人間の仕事を奪う」と言われるなど、ITの進化にともなって社会はますます流動性を高めています。そのような将来において、自分は何を持ち味にして、どのようなキャリアを歩みたいのか、それを参加者が皆で考える企画です。いくつかのワークをとおして自分の持ち味を発見・確認します。

国内外の大学院への
進学をサポート



大学院進学支援

Graduate School Guidance

責任あるポジションの人材に求められる学歴のグローバルスタンダードが、修士課程以上という傾向が強まっています。APUにおいても世界を舞台に活躍できるリーダーの輩出を目指し、国内外の大学院進学に関する相談への対応や、情報提供をはじめ、大学院へ進学した卒業生とも連携し、「大学院進学というキャリア」について考える企画を開催するなど、多彩なサポートを行なっています。

キャリア支援

主なオンキャンパス・リクルーティング参加企業 (2015~2018年度 50音順)

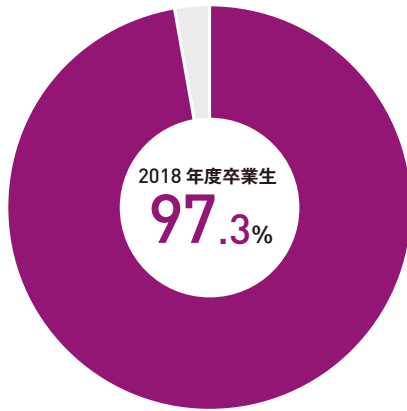
IHI アクセンチュア 旭化成 アシックス アデコ AIGグループ エヌ・ティ・ティ・データ NTTドコモ オカムラ オムロン カルビー 川崎汽船 関西電力 キッコーマン 九州電力 麒麟 クラレ KDDI	コクヨ コニカミノルタ コマツ サイバーエージェント ジェーシービー JTBアジア・パシフィックグループ 商船三井 鈴与 住友商事 住友電気工業 石油資源開発 全日本空輸 双日 ソフトバンク ダイキン工業 帝国ホテル 帝人 東京センチュリー	東芝 東レ 凸版印刷 豊田通商 日産自動車 日清食品 日本銀行 日本航空 日本製鉄 日本生命保険 日本電気 日本放送協会 ネスレ日本 パソナグループ パナソニック バンダイ 日立製作所 ファーストリテイリング	フォスター電機 富士ゼロックス 富士通 富士フィルム 星野リゾート マツダ 丸紅 みずほフィナンシャルグループ 三井住友銀行 三井物産 三菱商事 三菱東京UFJ銀行 ヤマハ 郵船ロジスティクス 吉本興業 ライオン りそなホールディングス ローム
---	---	---	---

主な就職先企業・団体一覧 (2015~2018年度 50音順)

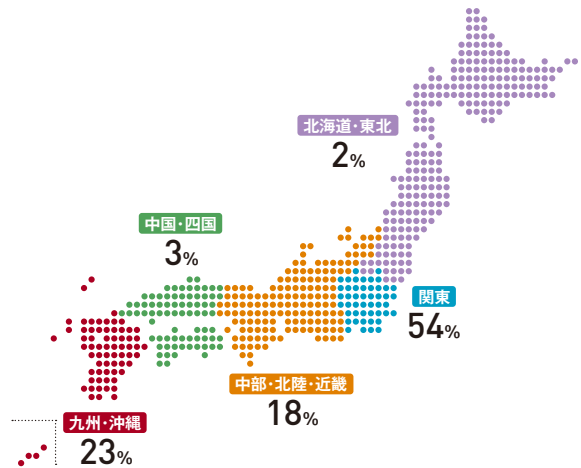
IHI アイシン精機 アクセンチュア アジアナ航空 アシックス アストラゼネカ アビームコンサルティング アマゾンウェブサービスジャパン イケア・ジャパン いすゞ自動車 伊藤忠商事 EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング UUUM AIU損害保険 エイチ・アイ・エス SMBC日興証券 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ NTTドコモ エミレーツ航空 大分銀行 大分県警察本部 大分県庁 大分合同新聞社 大塚製薬 岡村製作所 オムロン オリエンコーポレーション カザフスタン共和国大使館 カタール航空 カネボウ化粧品 カルビー 川崎汽船 関西電力 キーエンス キャセイパシフィック航空 キャンノン キュービー 九州旅客鉄道 一般社団法人共同通信社 京都銀行 麒麟ビバレッジ グーグル クボタ	公文教育研究会 ぐるなび 警視庁 KDDI 神戸製鋼所 国際石油開発帝石 国税庁 コスモ石油 小林製薬 サイバーエージェント 山九 産業経済新聞社 ジェイティービー ジェーシービー 商船三井 シンガポール航空会社 新日鐵住金 スズキ スターバックスコーヒージャパン 石油資源開発 全日本空輸 (客室乗務員) 双日 ソフトバンク 第一生命保険 大和総研 タカラトミー 中国電力 中部国際空港 帝国ホテル 帝人 デロイトトーマツコンサルティング 東芝 凸版印刷 豊島 豊田通商 西日本シティ銀行 西日本鉄道 日興アセットマネジメント 日産自動車 日清食品 日本アイ・ピー・エム 日本航空 (客室業務部) 日本生命保険	日本通運 日本電気 日本電産 日本放送協会 日本郵政 ネスレ日本 野村證券 博報堂 博報堂プロダクツ パナソニック バンダイナムコエンターテインメント 日立製作所 ファーストリテイリング 福岡銀行 富士ゼロックス 富士通 プリチストン プリンスホテル ブルームバーグLP 防衛省 星野リゾート 堀場製作所 本田技研工業 マツダ 丸紅 マンダム みずほフィナンシャルグループ 三井化学 三井住友銀行 三越伊勢丹 三菱ケミカルホールディングス 三菱電機 三菱UFJモルガン・スタンレー証券 ヤフー ヤンマー ゆうちょ銀行 ユニ・チャーム 吉本興業 LINE 楽天 りそな銀行 ローム YKK
--	--	---

APU進路・就職データ

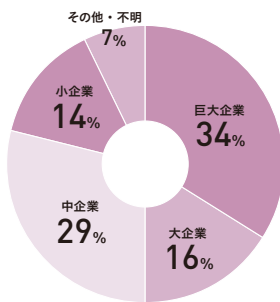
就職決定率 (国内学生)



地域別就職状況 (国内学生)

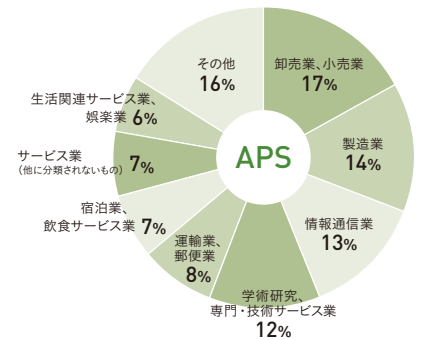
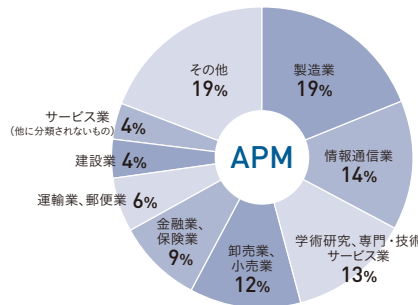


従業員規模別就職状況 (国内学生)



巨大企業：従業員数 1,000人以上
大企業：従業員数 500~999人
中企業：従業員数 100~499人
小企業：従業員数 100人未満

業種別就職先企業 (国内学生)



※業種は日本産業分類の大分類による

大学院等進学者数

[2015年度]

96名

[2016年度]

78名

[2017年度]

90名

[2018年度]

75名

主な大学院進学 (2015~2018年度/国内大学院は50音順)

〈海外〉

欧米

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校
インペリアル・カレッジ・ロンドン
ウォーリック・ビジネス・スクール
エジンバラ大学大学院
エセックス大学大学院
オックスフォード大学大学院
オハイオ州立大学大学院
キングス・カレッジ・ロンドン
シェフィールド大学
中央ヨーロッパ大学大学院
ノッティンガム大学大学院
ノルウェー経営大学大学院
ブラッドフォード大学大学院
ブリストル大学大学院
マンチェスター大学大学院
ユトレヒト大学大学院
ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院

ロンドン大学大学院 など

オセアニア

オーストラリア国立大学大学院
クイーンズランド工科大学大学院
メルボルン大学大学院 など

アジア

コロポ大学大学院
シンガポールマネージメント大学大学院
香港城市大学大学院
香港中文大学大学院
延世大学大学院 など

名古屋大学大学院

一橋大学大学院

広島大学大学院 など

私立

慶応義塾大学大学院
上智大学大学院
明治大学大学院
立命館アジア太平洋大学大学院
立命館大学大学院
早稲田大学大学院 など

〈国内〉

国公立

京都大学大学院
上越教育大学大学院
東京工業大学大学院
東京大学大学院
東北大学大学院

学 費

1年間の学費 (2020年4月入学)
*授業料は社会情勢の変動などにより見直すことがあります。

= 入学金 **¥200,000** + 1回生時の授業料 **¥1,300,000**

春セメスター(4～9月) 授業料A ¥380,000 + 授業料B ¥270,000 + 秋セメスター(9～3月) 授業料A ¥380,000 + 授業料B ¥270,000

2020年4月入学者の最短修業年限までの年間授業料額 (見込額)

	1回生時	2回生時	3回生時	4回生時
授業料	¥1,300,000	¥1,500,000	¥1,500,000	¥1,500,000

卒業単位数を超える単位の修得や5回生以上の場合

4年間で124単位(卒業必要単位)を超える単位を登録・修得した場合でも、追加して授業料を支払う必要はありません。ただし、5回生以上になった場合は、授業料Aの1/2と受講登録した単位数分の授業料B(1単位22,500円)が必要です。

奨学金

※2020年度の奨学金の詳細についてはAPUmate.netでご確認ください。

**入学試験の成績で採用される奨学金
国内学生優秀者育英奨学金**

奨学金支給を希望する入学試験合格者のうち、成績優秀者に支給される奨学金です。採用候補者には、合格通知とともに通知し、所定の入学手続を完了することで正式に採用となります。

- 採用人数：55名
- 奨学金額：授業料の半額に相当する額
- 対象入試方式：2020年度4月・9月入学 国内学生入学試験(1回生新入学)すべて ※編入学・転入学試験は対象外
- 選考方法：奨学金受給を希望する合格者のうち成績優秀者を採用
- 支給期間：4年間 ※ただし、セメスター(学期)ごとに継続審査あり

**経済支援を目的とした受験前に申請できる予約型奨学金
国内学生修学奨励奨学金**

APUへの入学を強く希望し、入学試験に合格した場合には入学する意思を明確に持つ方が対象。入学試験受験前に奨学金の採用結果を受け取ることも可能な事前予約型奨学金。採用候補者が入試で合格し入学すれば入学後に奨学金が受けられます。

- 採用人数：15名
- 奨学金額：授業料の半額に相当する額
- 支給期間：4年間 ※ただし、セメスター(学期)ごとに継続審査あり
- 出願条件：高等学校の卒業時期、学業成績基準、家計収入基準(給与・年金収入金額(課税前)600万円未満、事業所得金額197万円未満)等
- 選考方法：申請書類に基づく書類審査
- 対象入試方式：2020年度4月・9月入学 国内学生入学試験(1回生新入学)すべて ※編入学・転入学試験は対象外

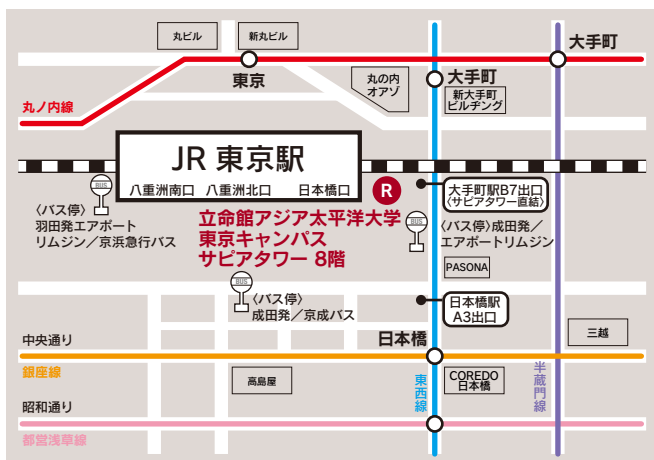
※文部科学省が具体化に向けて取り組んでいる「大学等における修学の支援に関する法律」に伴い、諸処方針を検討中です。

東京キャンパス

APUの職員が在籍しており、個別相談・資料配布を行っています。ひとりひとりの思い描く大学生活が実現できるよう学生生活、海外学修プログラム、入試、学費・奨学金などについて相談に応じます(要電話予約)。またAPU入学後はパソコンの利用ができ、就職活動の拠点として専門のカウンセラーも常駐しています。

〒100-0005
東京都千代田区丸の内1-7-12 サビアタワー8階
TEL 03-5224-8188

【開室時間】
月～土 9:00～17:30



APU入試イベント2019

●入試イベントの最新情報はこちら
http://r.apu.jp/apumate



要事前申込 のイベントへ参加を希望される方は、
受験生向け情報サイトAPUmate.netより事前申込を行ってください。(定員あり)

全国各地で行うイベント

APUの学びを知れる1日!

APU大学説明会

要事前申込

大学説明会では、APUがどのような教育を行っているのか、どうい
う大学を目指しているのかについて説明します。また、在学生や卒業生
による体験談もあり、どのような大学生活を別府で送っているのか知
ることができます。

日程	開催地	時間	会場
5月24日(金)	東京	18:30-20:30	立命館東京キャンパス
6月1日(土)	福岡	15:00-17:00	マイナビルーム
6月9日(日)	東京	10:00-12:00	立命館東京キャンパス
		15:00-17:00	
6月22日(土)	名古屋	15:00-17:00	イオンコンパス名古屋駅前・桜通口
6月23日(日)	大阪	13:00-15:00	AP 大阪駅前梅田1丁目
8月24日(土)	大阪	13:00-15:00	AP 大阪梅田茶屋町
8月25日(日)	名古屋	13:00-15:00	イオンコンパス名古屋駅前・桜通口
9月23日(月)	東京	10:00-12:00	立命館東京キャンパス
		15:00-17:00	
12月21日(土)	大阪	14:00-16:00	AP 大阪梅田茶屋町
2020年 3月15日(日)	東京	10:00-12:00	立命館東京キャンパス
		15:00-17:00	
3月15日(日)	名古屋	13:00-15:00	イオンコンパス名古屋駅前・桜通口
3月21日(土)	大阪	13:00-15:00	AP 大阪梅田茶屋町

APUの教育・AO入試ポイントを解説!

AO入試・帰国生入試説明会

要事前申込

APUの国際的な環境、教育内容、留学、就職支援、入試ポイント等につ
いて説明します。帰国生の方には、語学力や異文化対応能力を高めてい
くためにはどのような視点が必要かについてもお話しします。保護者様
のご参加もお待ちしております。どんな小さな疑問でも受け付けます。

日程	開催地	時間	会場
6月19日(水)	東京	18:30-20:30	立命館東京キャンパス
6月29日(土)	東京	15:00-17:00	立命館東京キャンパス
		18:30-20:30	
6月30日(日)	福岡	13:00-15:00	マイナビルーム
7月15日(月)	名古屋	13:00-15:00	イオンコンパス名古屋駅前・桜通口
7月20日(土)	東京	18:00-20:00	立命館東京キャンパス
7月21日(日)	大阪	10:00-12:00	AP 大阪梅田茶屋町
7月26日(金)	東京	18:30-20:30	立命館東京キャンパス
11月24日(日)	福岡	10:00-12:00	マイナビルーム
12月21日(土)	東京	18:30-20:30	立命館東京キャンパス

APUの教育・一般入試ポイントを解説!

一般入試説明会

要事前申込

本学のカリキュラムや日英2言語教育、多文化環境についてはもちろ
んのこと、入試方式の概要や昨年度の出題方針、合格ボーダーライン
について解説します。

英語対策 : 英語対策講座ありのプログラムです

日程	開催地	時間	会場
11月17日(日)	東京	10:00-12:00	立命館東京キャンパス
		15:00-17:00	
11月24日(日)	福岡	15:00-17:00	マイナビルーム
12月14日(土)	名古屋	15:00-18:00	イオンコンパス名古屋駅前・桜通口
12月15日(日)	広島	10:00-13:00	TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前
12月21日(土)	東京	15:00-17:00	立命館東京キャンパス
12月22日(日)	大阪	10:00-13:00	AP 大阪梅田茶屋町

APUの英語開講授業を実際に体験!

英語開講授業体験

要事前申込

異なる言語や文化を持つ学生たちと英語を通じて専門的なことを学ぶ
APUの授業。国際系大学に興味をお持ちの方、海外留学を考えている
方、異文化環境で学ぶ自分自身の姿をイメージしてみませんか。模擬授
業のほか、大学説明や入試相談も行います。

日程	開催地	時間	会場
7月20日(土)	東京	15:00-17:30	立命館東京キャンパス
7月21日(日)	大阪	15:00-17:00	AP 大阪梅田茶屋町
8月25日(日)	東京	9:30-12:00	立命館東京キャンパス
10月5日(土)	東京	15:00-17:30	立命館東京キャンパス
12月21日(土)	大阪	17:00-19:00	AP 大阪梅田茶屋町

全国大学・入試相談会

事前申込不要

地域	日程	開催地	時間	イベント名	会場
東北	10月5日(土)	仙台	10:30-17:00	夢ナビライブ2019	夢メッセみやぎ
関東	6月8日(土)	東京	10:30-17:00	夢ナビライブ2019	東京ビッグサイト
	7月30日(火)	東京	11:30-16:00	2019年度 帰国生のための学校説明会・相談会	東京都立産業貿易センター台東館
中部	7月20日(土)	名古屋	10:30-17:00	夢ナビライブ2019	ポートメッセなごや
関西	6月16日(日)	京都	13:00-16:00	サンライズ・エージェンシー 2019年度 大学・短大進学相談会	イオンモール KYOTO
	7月24日(水)	大阪	10:30-17:00	夢ナビライブ2019	インテックス大阪
	8月3日(土)	衣笠	10:30-15:30	立命館大学オープンキャンパス	立命館大学 衣笠キャンパス
		OIC	10:30-15:30	立命館大学オープンキャンパス	立命館大学 OIC キャンパス
	8月4日(日)	衣笠	10:30-15:30	立命館大学オープンキャンパス	立命館大学 衣笠キャンパス
		OIC	10:30-15:30	立命館大学オープンキャンパス	立命館大学 OIC キャンパス
9月21日(土)	神戸	13:00-16:00	サンライズ・エージェンシー 2019年度 入学願書配布 & 個別進学相談会	三宮センタープラザ	
中国	5月25日(土)	広島	10:30-16:30	ミライの学びかた進学 EXPO	基町クレド
九州	6月4日(火)	福岡	14:30-19:00	九州・山口地区進学説明会	ニューオータニ博多
	6月5日(水)	大分	14:00-18:30	九州・山口地区進学説明会	トキハ会館
	7月22日(月)	大分	11:00-16:30	進路のミカタ LIVE 大分会場	大分イベントホール
	7月23日(火)	福岡	11:00-16:30	進路のミカタ LIVE 福岡会場	福岡国際センター
	9月14日(土)	福岡	13:00-17:00	グローバル系/外国語・国際系大学フェア2019	エルガーラホール
	10月19日(土)	福岡	10:30-17:00	夢ナビライブ2019	マリネット福岡

APUキャンパスイベント

A taste of APU, A Glimpse of the World.
～世界に一番近い場所を体感～

オープンキャンパス

要事前申込

入試説明会や英語での模擬講義、世界中から学生が集まる国際的なキャンパスを学生スタッフが案内するツアーなど、APUの魅力を感じることができるイベントが盛りだくさん。世界に一番近い場所を体感してください。

会場／APUキャンパス
時間／11：00～16：30

【第1回】

7/14 (日)

【第2回】

8/4 (日)

【第3回】

11/3 (日・祝)



- 大学・学部紹介：それぞれの学部の学びを知ろう！
- 入試説明会：気になる入試のポイント、内容を説明します！
- 留学説明会：留学プログラムの説明の他、留学体験談も聞けます！
- キャリア説明会：就職率や就職先、キャリアサポートについて説明！
- 模擬授業：英語での授業もあります。APUの授業を実際に体感！
- キャンパスツアー・国際寮ツアー：学生スタッフが案内します！
- 個別相談：大学生生活のこと、学費のこと、なんでもお気軽にどうぞ！

オープンキャンパス専用ツアー

遠方からの参加者のために主要各都市からのツアーパックを提供しています。

対象者：高校生、既卒生(大学受験を予定している方)、保護者(2名様まで)

東京、名古屋、大阪、広島、福岡、熊本、大分からのツアーを用意しております。このツアーの費用の一部は本学が負担しますので、ぜひご利用ください。ツアーの詳細はホームページ (http://www.apumate.net/event_info/opencampus.html) からご確認ください。オープンキャンパス当日の1か月から1か月前よりホームページで公開する予定にしております。それぞれのコースに定員を設けております。お早目にお申し込みください。



APUキャンパスイベント〈高校生対象〉

グローバル人材育成キャンプ

BEGINプログラム

グローバル社会を生きていくうえで必要となる異文化適応能力、チームワーク、そして問題発見・解決能力。これらを身に付けるためにAPUでは「多文化協働ワークショップ」という授業を行っています。この授業のエッセンスを体験し、自分達で1つのプロジェクトを作り上げるのがBEGINプログラムです。

- ・募集人数：60名
- ・実施場所：APUキャンパス(大分県別府市)
- ・宿泊場所：APUキャンパス内学生寮「APハウス」
- ・参加費：38,000円(予定)

2019年8月・2020年3月 実施予定!

キャンパス見学会

APUを知っていただくためのキャンパス見学会を毎月実施。ライブラリーやAPハウスの居室の見学が可能のほか、入試・入学後の学習や生活等について個別にご相談頂くことも可能です。

5/20 (月)

6/16 (日)

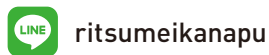
9/24 (火)

10/20 (日)

12/16 (月)

'20/3/22 (日)

APUをのぞいてみよう。



お問い合わせ

立命館アジア太平洋大学 アドミッションズ・オフィス

〒874-8577 大分県別府市十字原1-1 TEL 0977-78-1120 FAX 0977-78-1199

E-mail apumate@apu.ac.jp URL <http://www.apu.ac.jp/>

※電話の対応は平日 9:00~17:30



本冊子には 2019 年度に実施予定のプログラムおよびその内容を掲載しています。2020 年度以降の実施を保証するものではありません。また、掲載された情報については変更されることがあります。